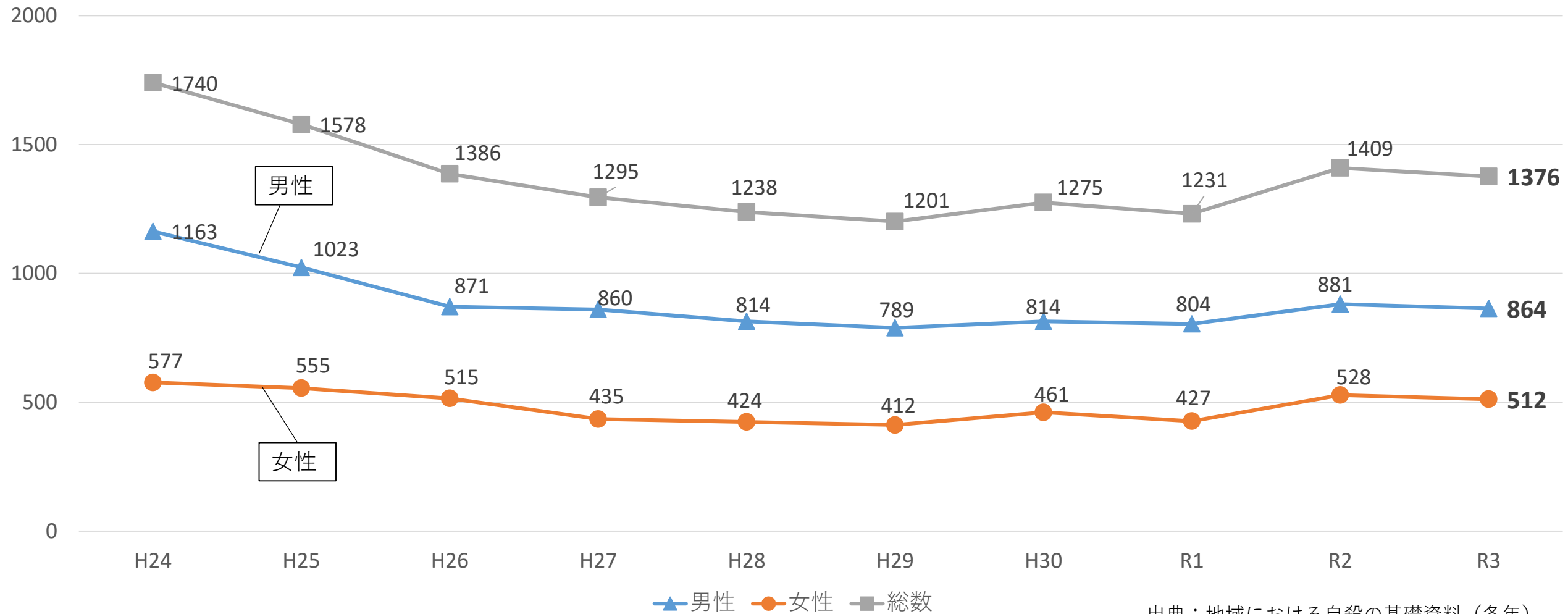


大阪府の自殺の状況

- 1 自殺の推移
- 2 令和2年における自殺者増加の状況
- 3 既遂者の背景（監察医事務所の個別データから）

1. 自殺の推移

大阪府の自殺者数の年次推移

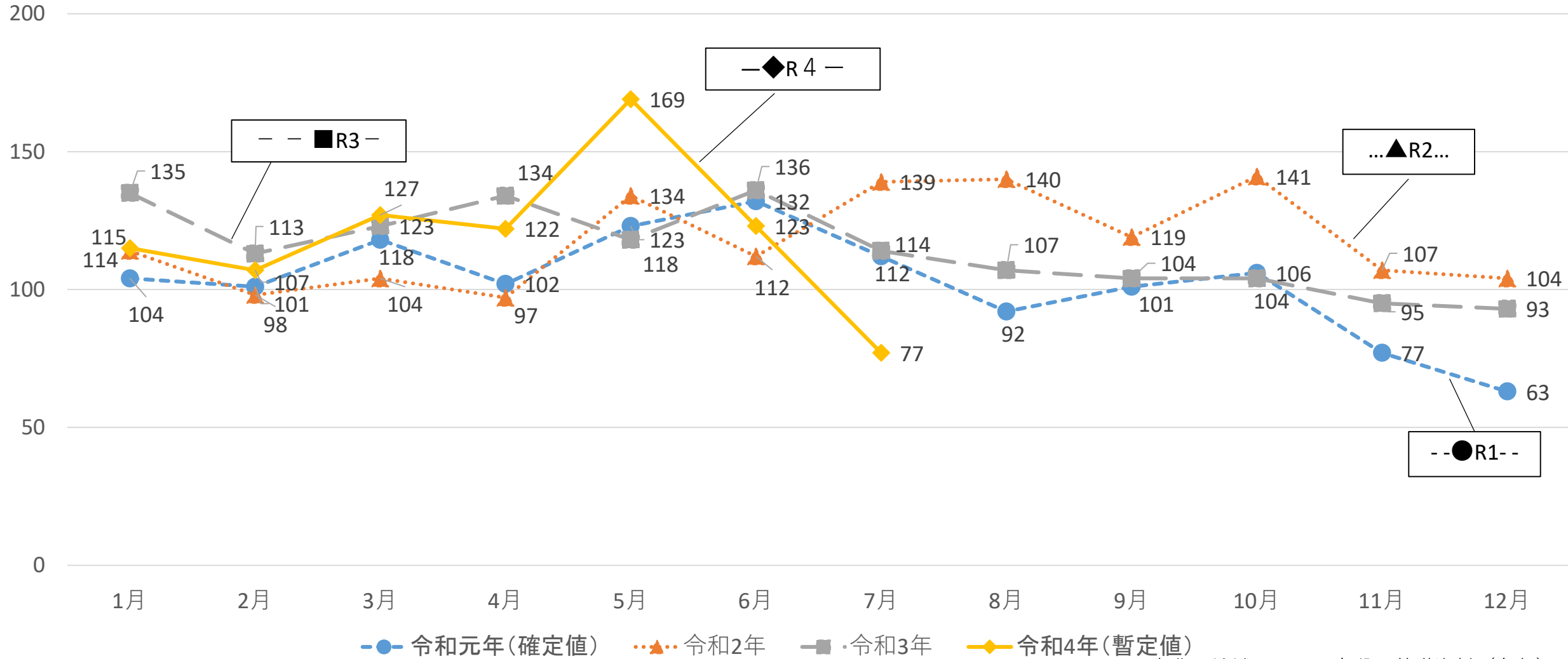


出典：地域における自殺の基礎資料（各年）

- ・大阪府の自殺者数は、近年減少傾向にあったが、平成30年は前年より増加、令和元年は減少するも令和2年は再び増加に転じている。
- ・令和3年の自殺者数は1376人となり、前年比33人（2.4%）減。男性は864人、前年比17人（1.9%）減。女性は512人、前年比16人（3.0%）減

1. 自殺の推移

大阪府月別自殺者数の推移R1-R4

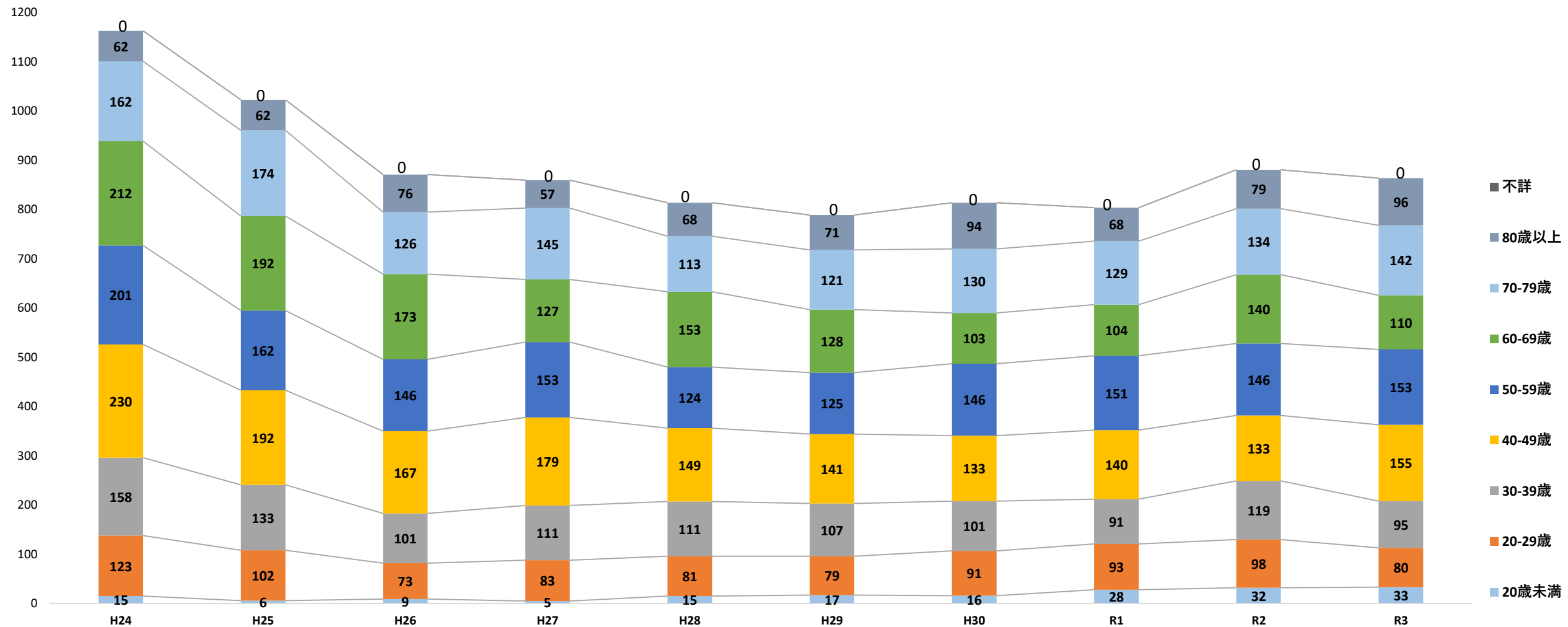


出典：地域における自殺の基礎資料（各年）

- ・ 令和2年の月別自殺者数は、5月と7月以降は令和元年を上回り、7月、8月、10月は高値となっている。
- ・ 令和3年の月別自殺者数は、1月から4月までは令和2年を上回り高い傾向であるが、7月以降は減少傾向。
- ・ 令和4年の月別自殺者数は、3月、5月は前年を上回り、その他は前年より低い。

1. 自殺の推移

年齢階級別自殺者数 大阪・男性



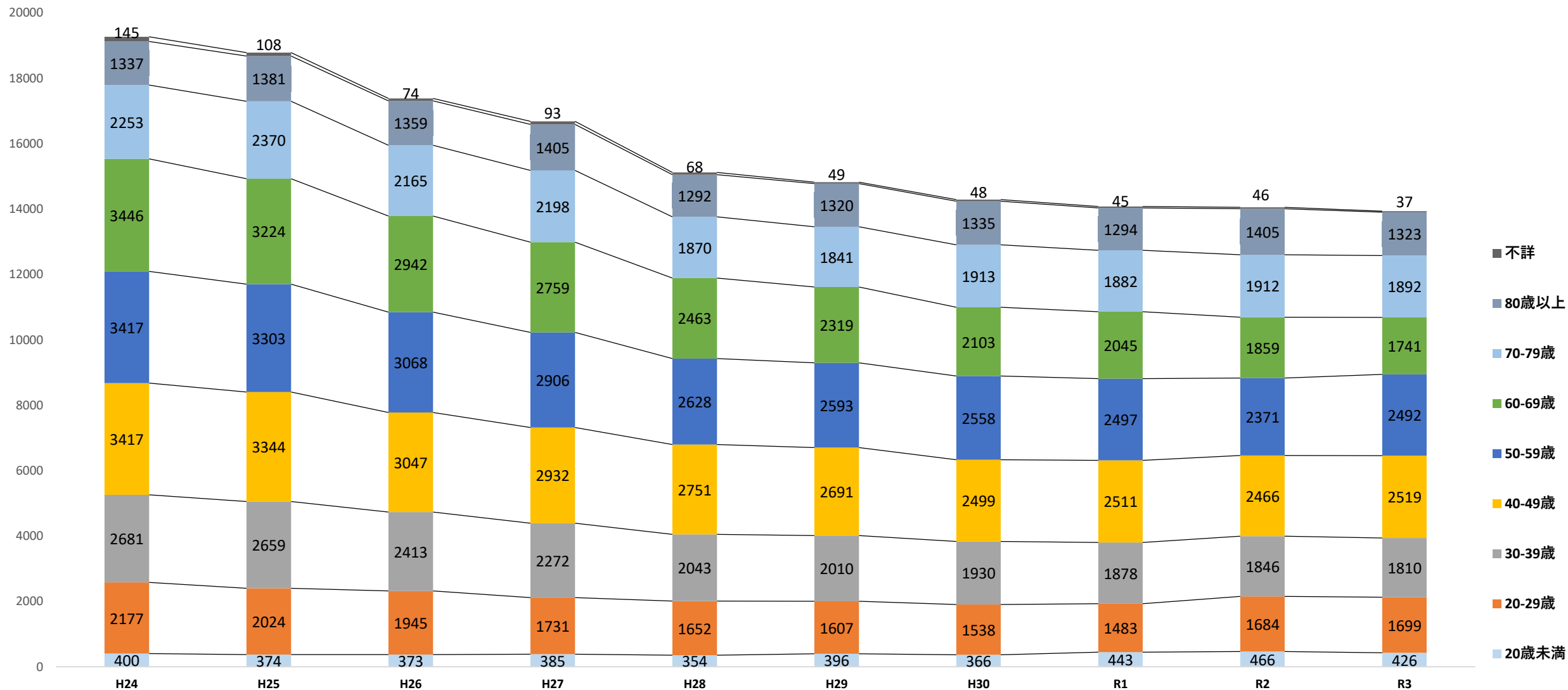
出典：地域における自殺の基礎資料（各年）

20歳未満は令和元年に大きく増加、以降も微増、70歳代、80歳代以上は令和2年以降増加している。
 令和3年は80歳代以上が最も大きく増加。（前年比21.5%増）
 令和2年に減少した40歳代、50歳代が令和3年増加に転じている。

1. 自殺の推移

年齢階級別自殺者数 【全国・男性】

参考

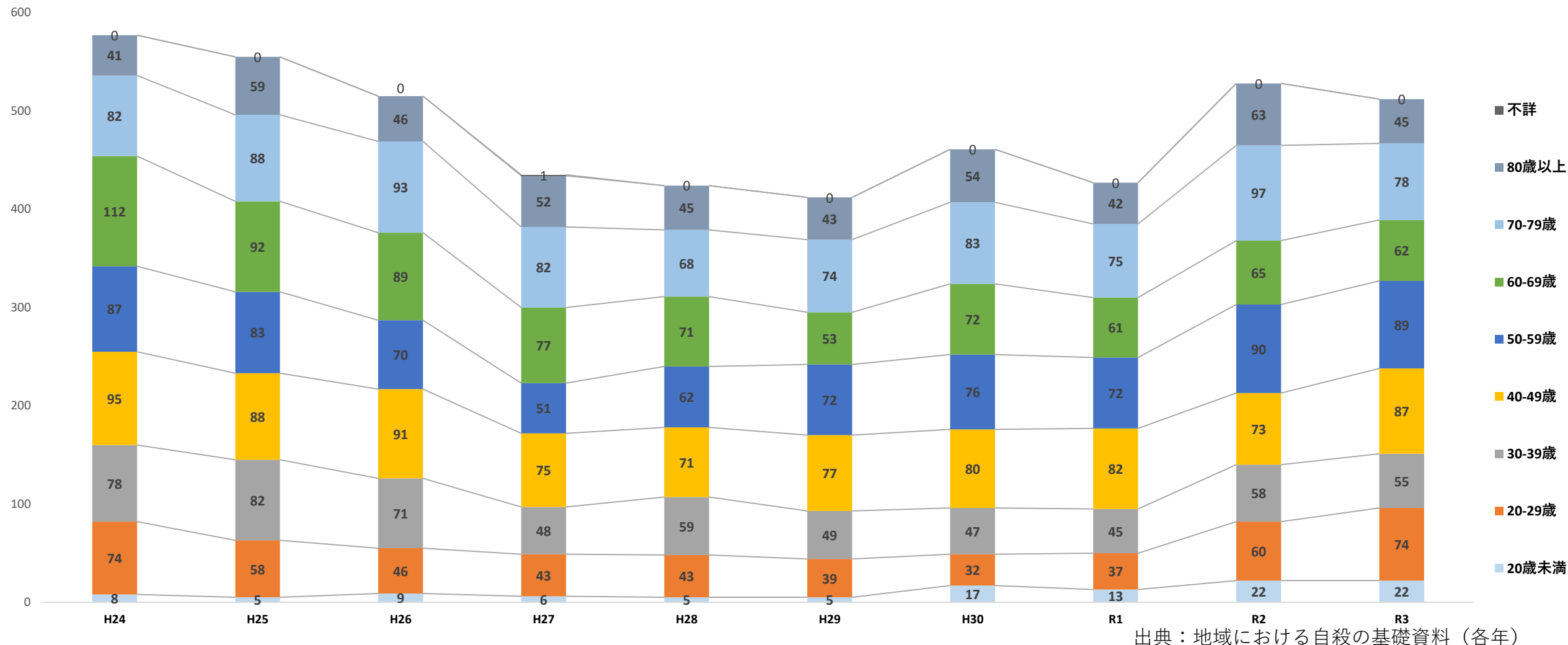


出典：地域における自殺の基礎資料（各年）

20歳代で令和2年以降増加。
令和2年に減少した40歳代、50歳代が令和3年増加に転じている。

1. 自殺の推移

年齢階級別自殺者数 【大阪・女性】



20歳代で令和元年以降年々増加（令和2年前年比62.2%増、令和3年前年比23.3%増）

20歳未満は令和2年大きく増加し、令和3年は横ばい（令和2年前年比69.2%増）

令和2年大きく増加した80歳代以上は令和3年減少（令和2年前年比50.0%増）

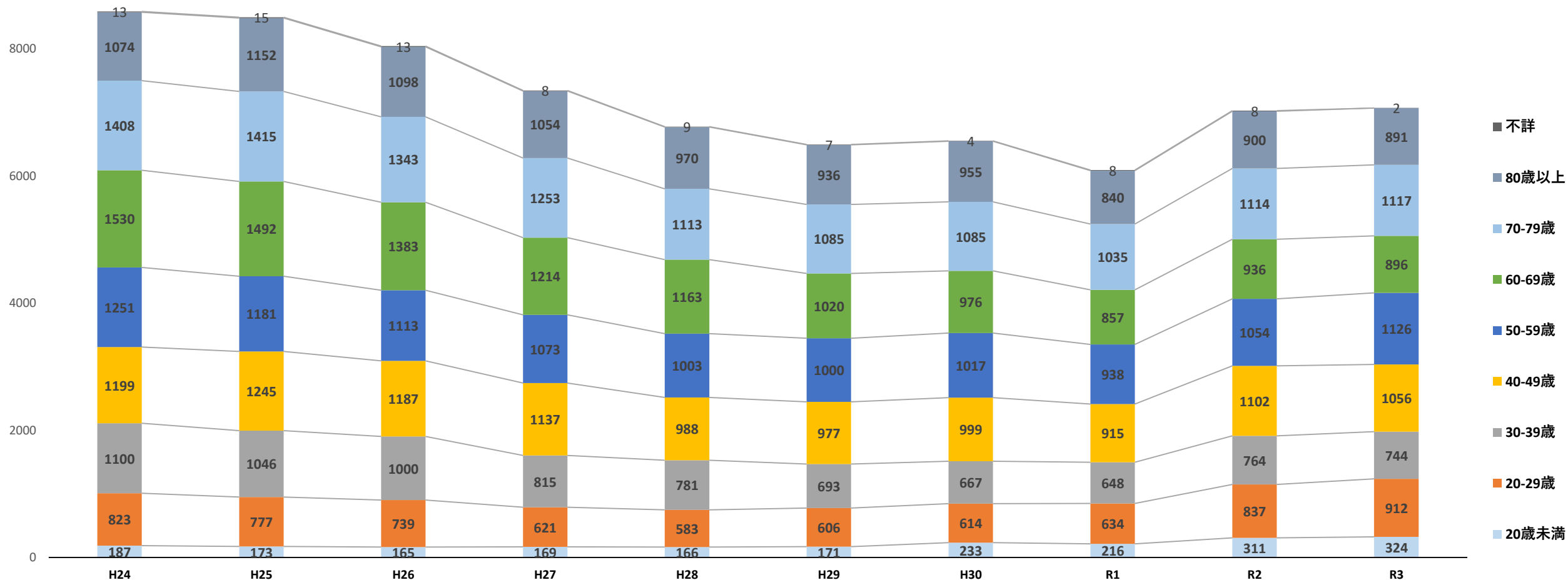
昨年減少していた40歳代が令和3年は増加。

1. 自殺の推移

年齢階級別自殺者数 【全国・女性】

参考

10000

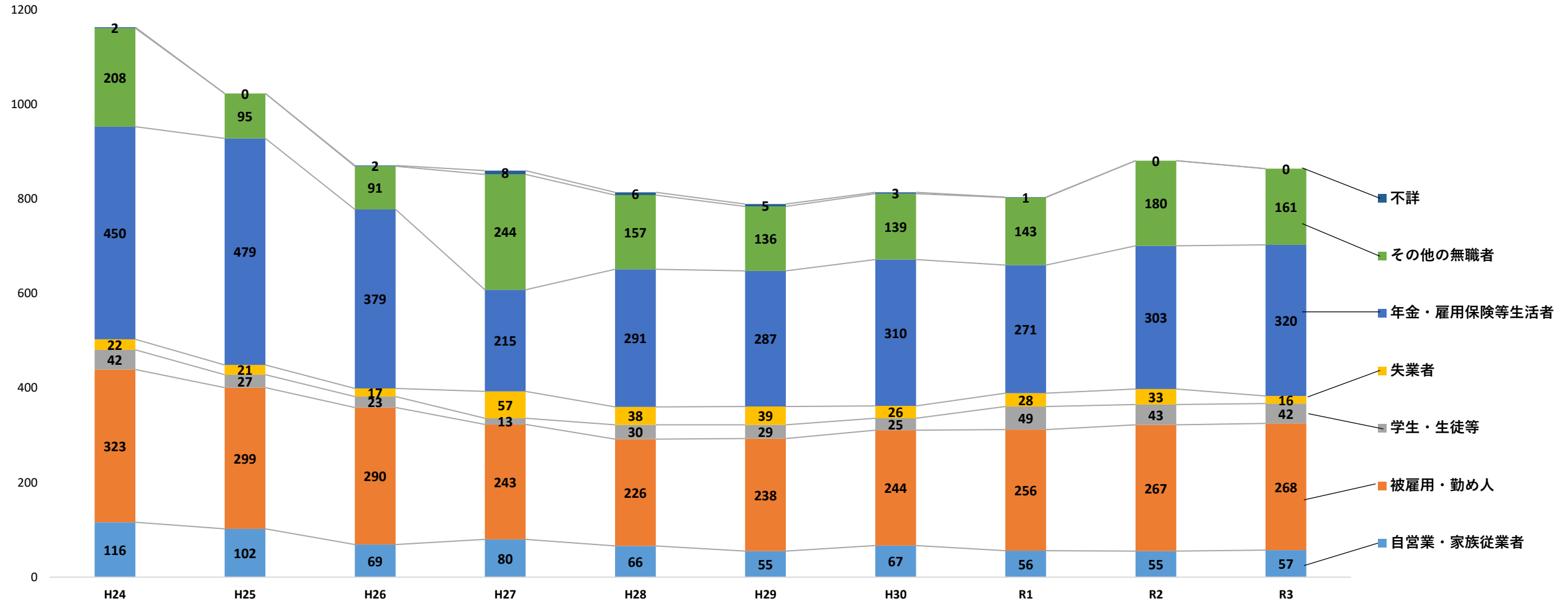


20歳未満、20歳代、50歳代、70歳代で令和2年以降増加。
増加した年齢階級の中では20歳代が高い水準で推移（令和2年対前年比32.0%増、令和3年対前年比9.0%増）。

出典：地域における自殺の基礎資料（各年）

1. 自殺の推移

職業別自殺者数 【大阪・男性】

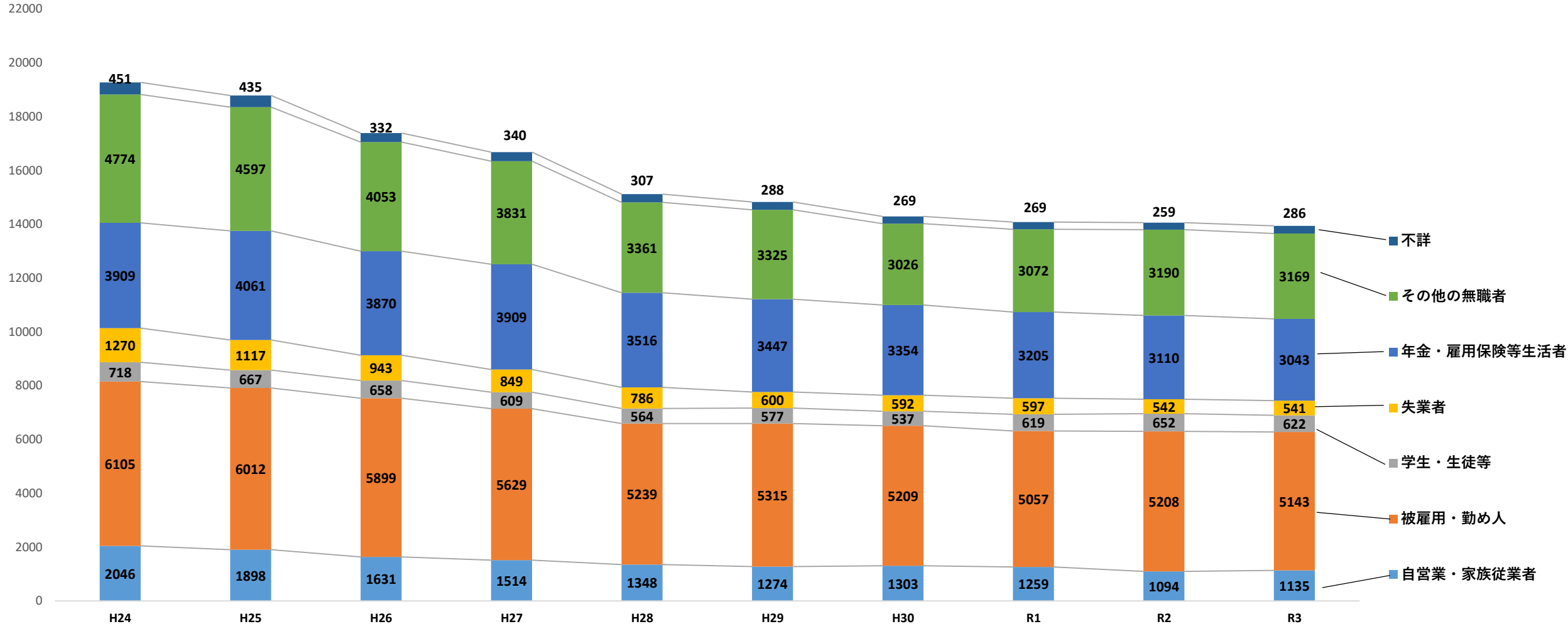


出典：地域における自殺の基礎資料（各年）

年金・雇用保険等生活者が最も多く、次いで被雇用・勤め人となっている。
被雇用・勤め人はH29年以降増加傾向にあり、年金・雇用保険等生活者は令和2年以降増加。
学生は令和元年に大きく増加し、その後は微減。

1. 自殺の推移

職業別自殺者数 【全国・男性】

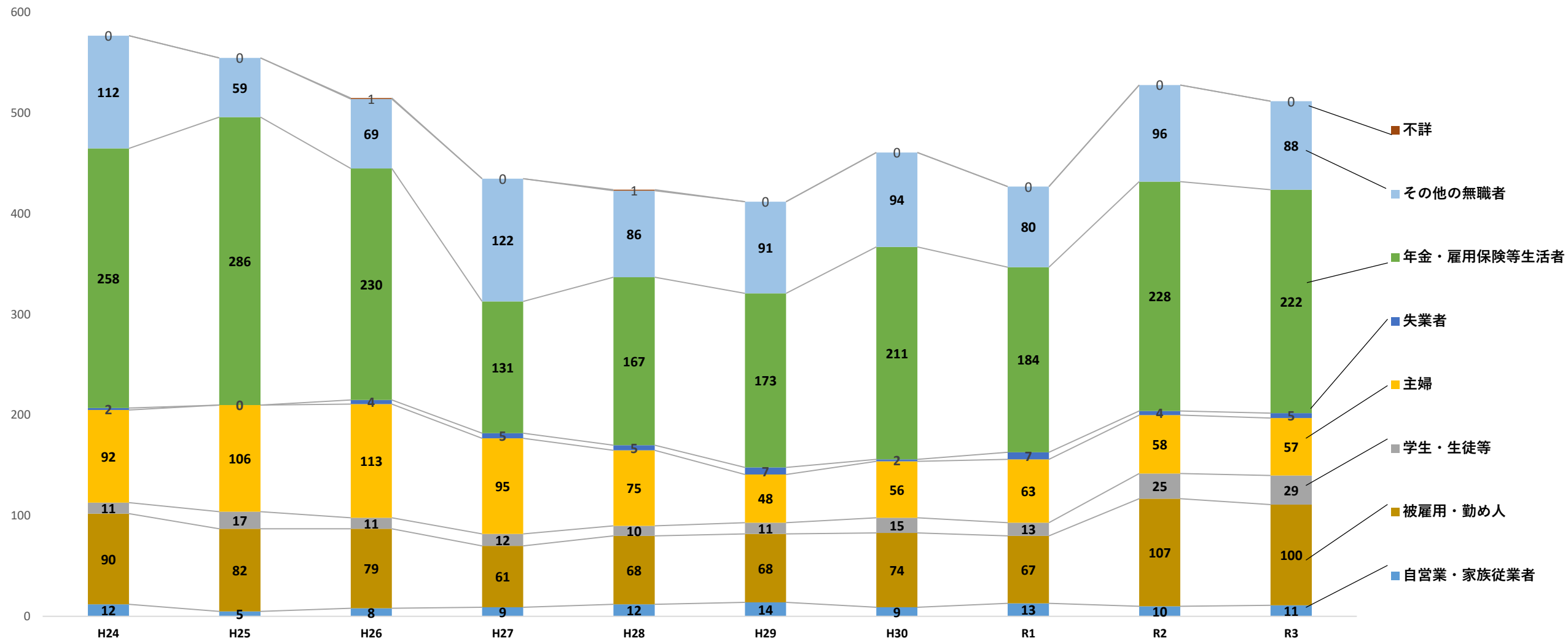


被雇用・勤め人が最も多く、次いでその他の無職者となっている。
 令和3年は令和2年と比較して、自営業・家族従事者と不詳が増加。
 自殺者数の多い被雇用・勤め人とその他無職者は、令和2年増加したが令和3年減少。
 年金・雇用保険等生活者はH29年以降減少傾向。学生は令和元年から2年まで増加し、令和3年は減少。

出典：地域における自殺の基礎資料（各年）

1. 自殺の推移

職業別自殺者数 【大阪・女性】



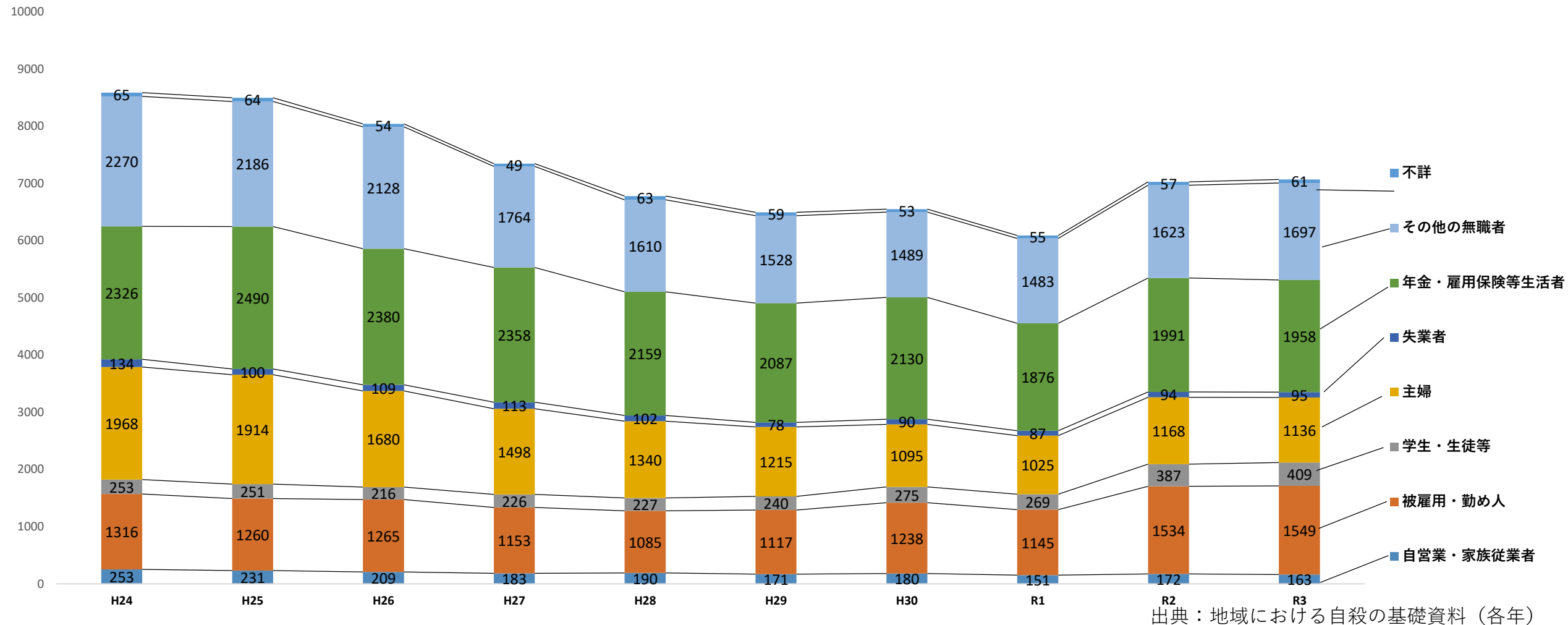
出典：地域における自殺の基礎資料（各年）

年金・雇用保険等生活者が最も多く、次いで被雇用・勤め人となっている。
 学生・生徒が令和2年以降増加（令和2年対前年比92.3%増、令和3年対前年比16.3%増）。
 令和2年大きく増加した、被雇用・勤め人（令和2年対前年増加率59.7%）、その他無職者（令和2年対前年増加率25.9%）、年金・雇用保険等生活者（令和2年対前年増加率23.9%）は令和3年減少。

1. 自殺の推移

職業別自殺者数 全国・女性

参考

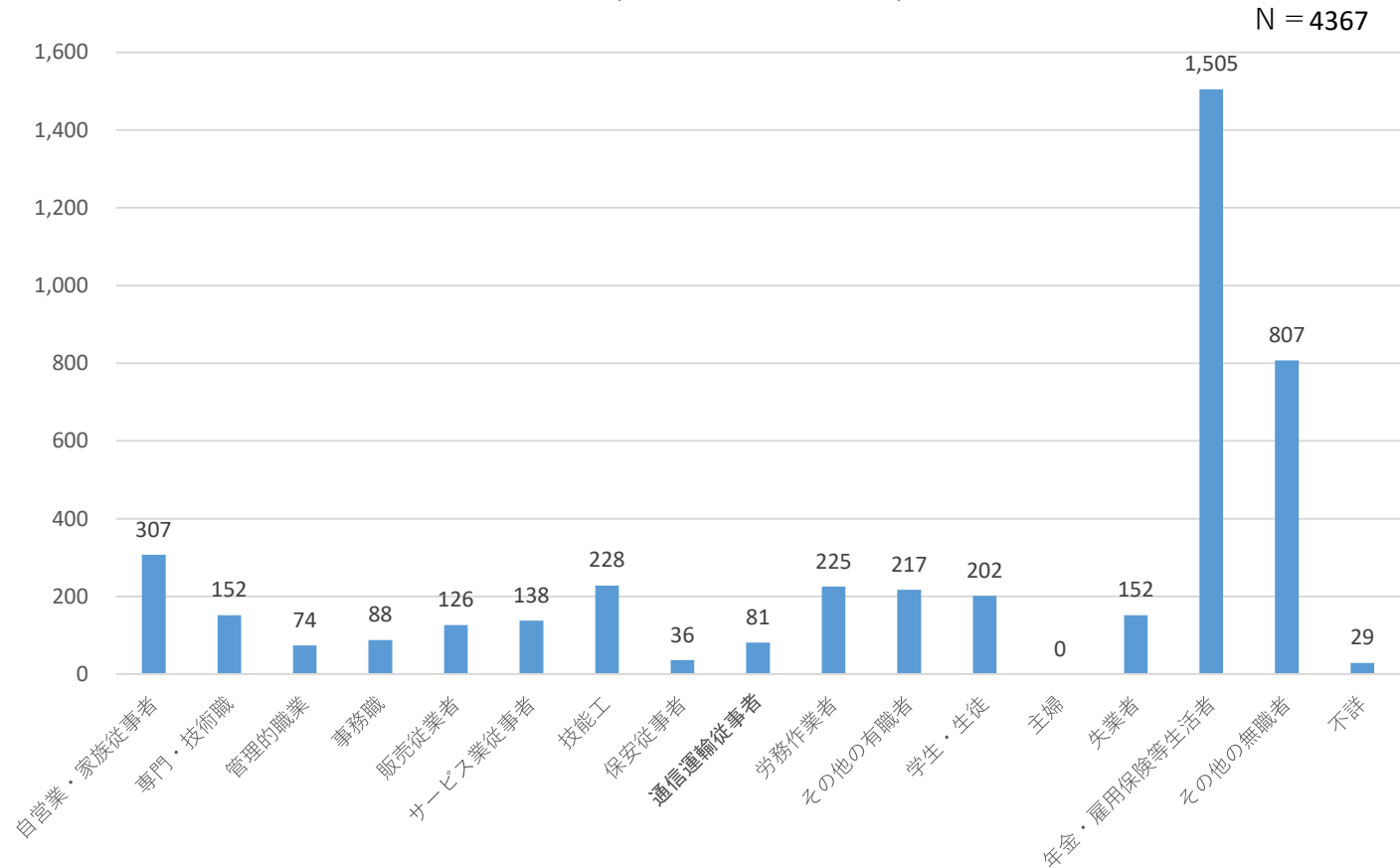


年金・雇用保険等生活者が最も多く、次いでその他の無職者となっている。
 被雇用・勤め人、学生・生徒等、失業者、その他の無職者、不詳は令和2年以降増加。
 学生生徒（令和2年対前年比**43.9%**増）、被雇用・勤め人（令和2年対前年比**34.0%**増）は令和2年に大きく増加。

1. 自殺の推移

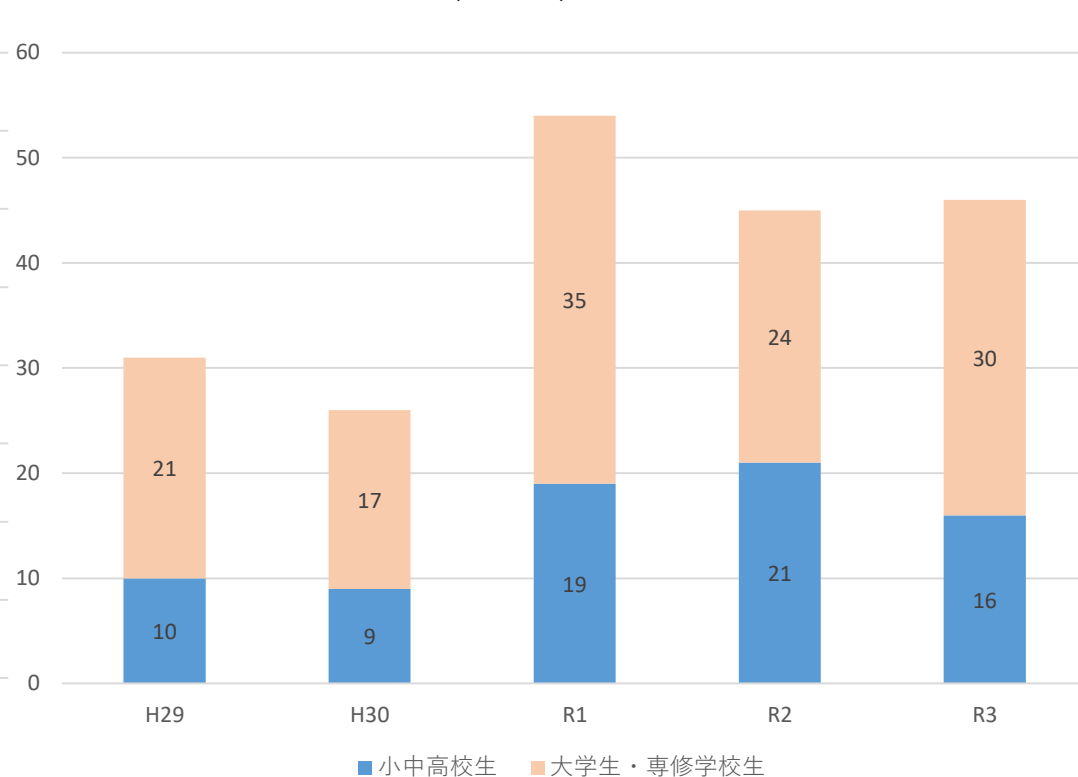
直近5年間の合計による職業別自殺者数（中分類）及び学生・生徒等の内訳の推移
厚生労働省提供特別集計より

職業別自殺者数（H29－R3合計）大阪・男性



※その他無職者には、浮浪者、利子配当・家賃等生活者が含まれる

学生・生徒等（内訳）推移 大阪・男性



出典：自殺統計原票データの特別集計・発見日住居地
(厚生労働省提供データから大阪府が作成)

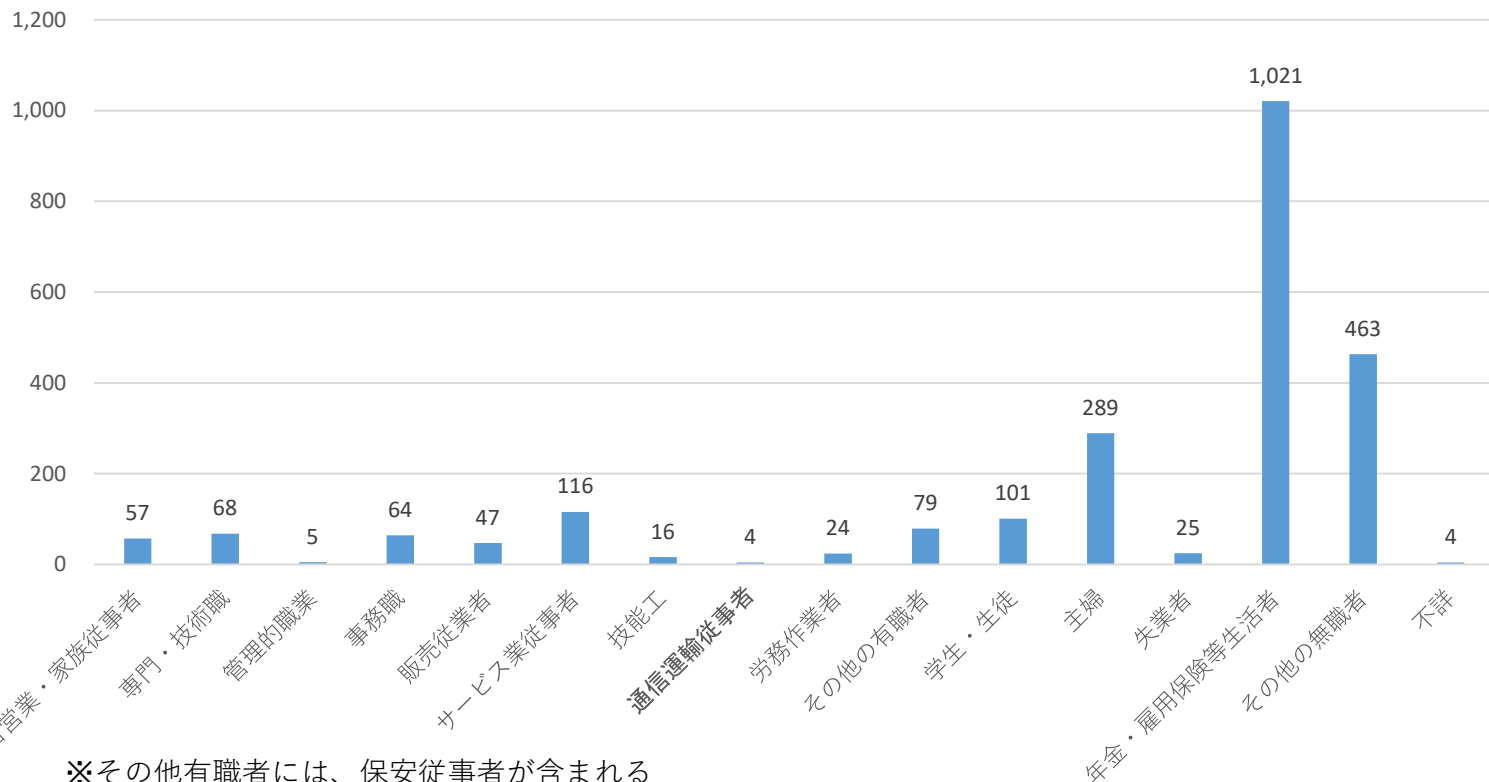
- ・全体で、年金・雇用保険等生活者が最も多く、次いでその他の無職者が多い。
- ・有職者だけで見ると、自営業・家族従事者が最も多く、次いで技能工、労務作業者の順となっている。
- ・学生・生徒等（内訳）の推移では、令和元年、小中高校生と大学生・専修学生で大きく増加。

1. 自殺の推移

直近5年間の合計による職業別自殺者数（中分類）及び学生・生徒等の内訳の推移
厚生労働省提供特別集計より

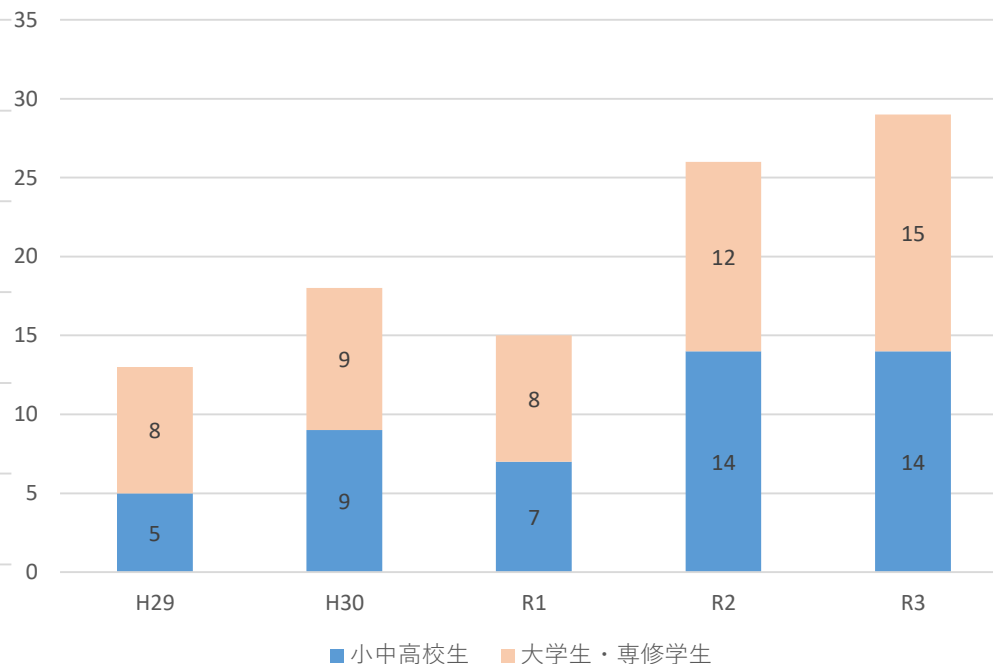
職業別自殺者数（H29～R3合計）大阪・女性

N = 2383



※その他有職者には、保安従事者が含まれる
※無職者には、利子配当・家賃等生活者が含まれる

学生・生徒等（内訳）推移大阪・女性



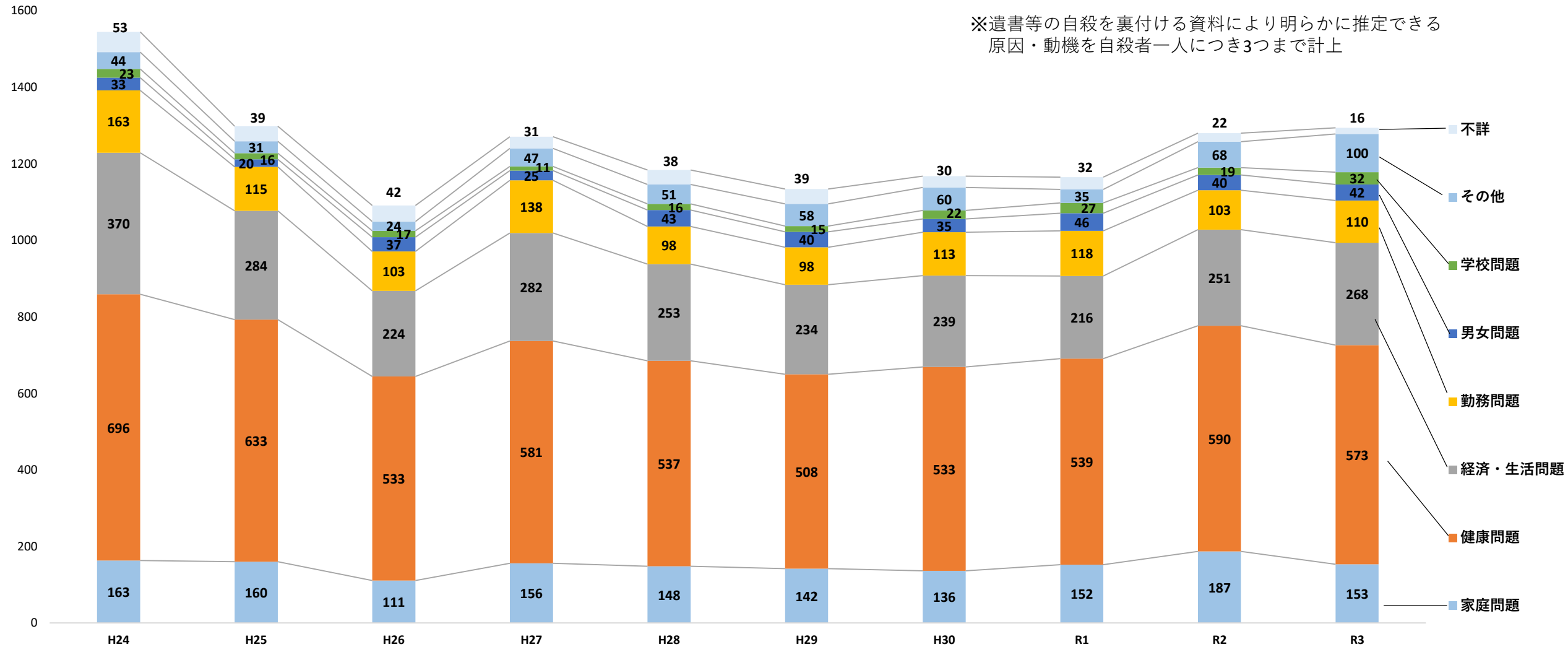
出典：自殺統計原票データの特別集計・発見日住居地
(厚生労働省提供データから大阪府が作成)

- ・全体では、年金・雇用保険等生活者が最も多く、次いでその他の無職者、主婦となっている。
- ・有職者だけで見ると、サービス従事者が最も多く、次いでその他の有職者、専門・技術職、事務職の順となっている。
- ・学生・生徒（内訳）の推移では、令和2年に小中高校生で大きく増加、大学生・専修学生は令和2年以降増加。

1. 自殺の推移

原因・動機別自殺者数 大阪・男性

※遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上



出典：地域における自殺の基礎資料（各年）

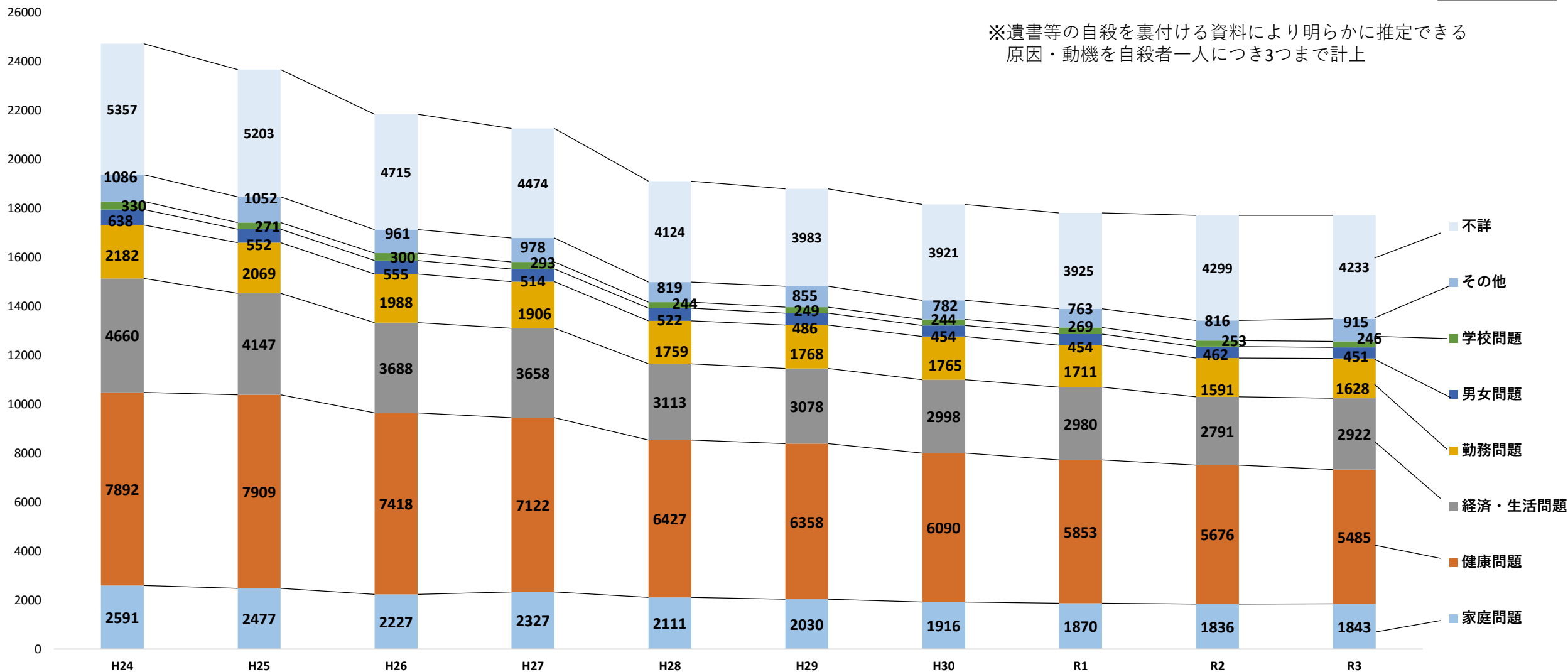
健康問題が最も多く、次いで経済・生活問題、家庭問題の順となっている。
 経済・生活問題、その他が令和2年より増加、勤務問題、男女問題、学校問題は令和3年増加。
 令和2年増加した健康問題、家庭問題は令和3年減少している。

1. 自殺の推移

原因・動機別自殺者数 全国・男性

参考

※遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上



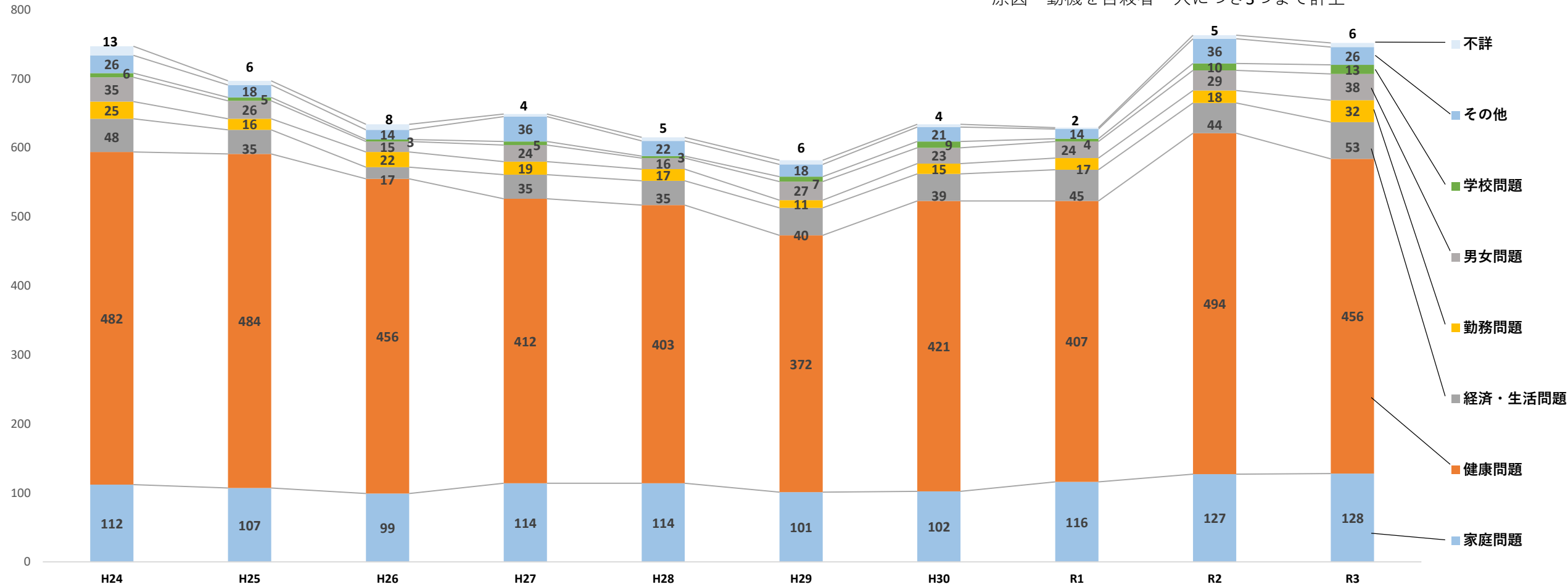
出典：地域における自殺の基礎資料（各年）

健康問題が最も多く、次いで不詳、経済・生活問題の順となっている。
令和3年は令和2年と比較して、家庭問題、経済・生活問題、勤務問題、その他が増加。

1. 自殺の推移

原因・動機別自殺者数 大阪府・女性

※遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上



健康問題が最も多く、次いで家庭問題、経済・生活問題の順となっている。家庭問題と勤務問題は平成30年から増加、男女問題は令和元年から増加、学校問題は令和2年から増加、経済・生活問題は令和3年増加している。令和2年増加した健康問題は令和3年減少している。

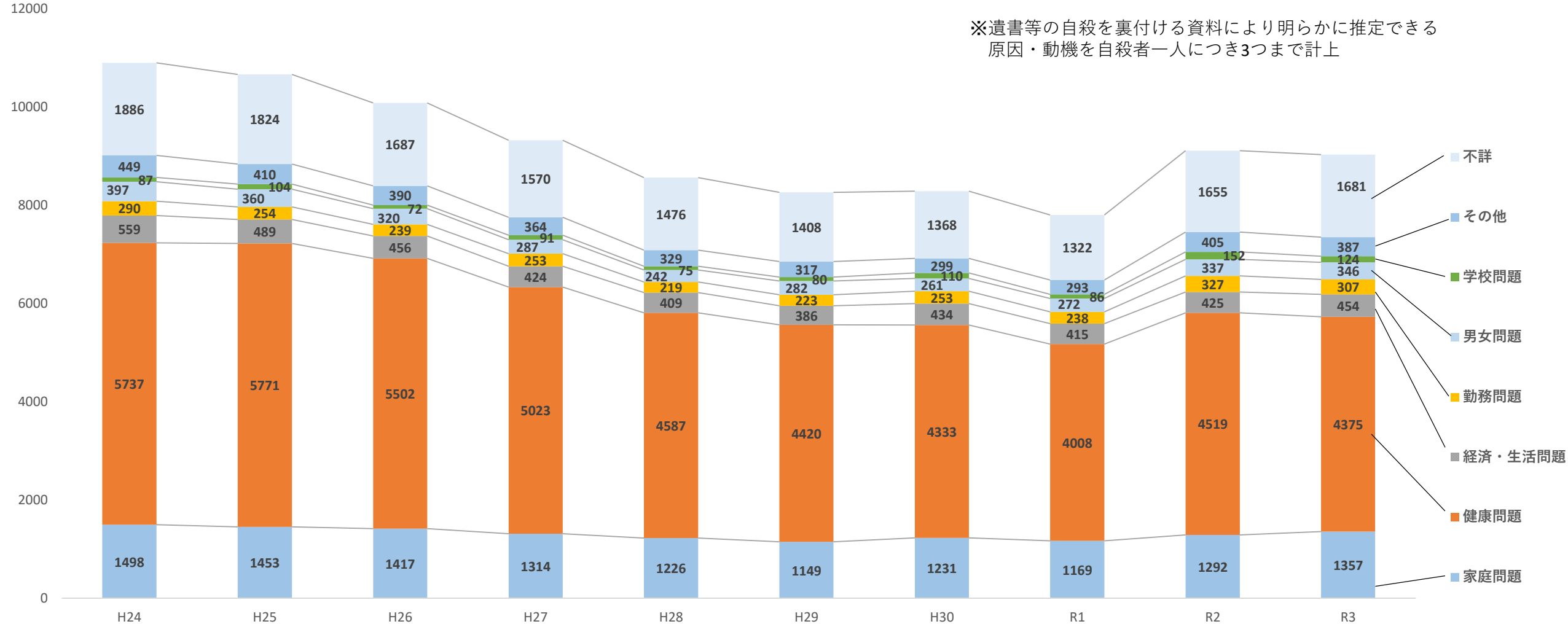
出典：地域における自殺の基礎資料（各年）

1. 自殺の推移

原因・動機別自殺者数 全国・女性

参考

※遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上



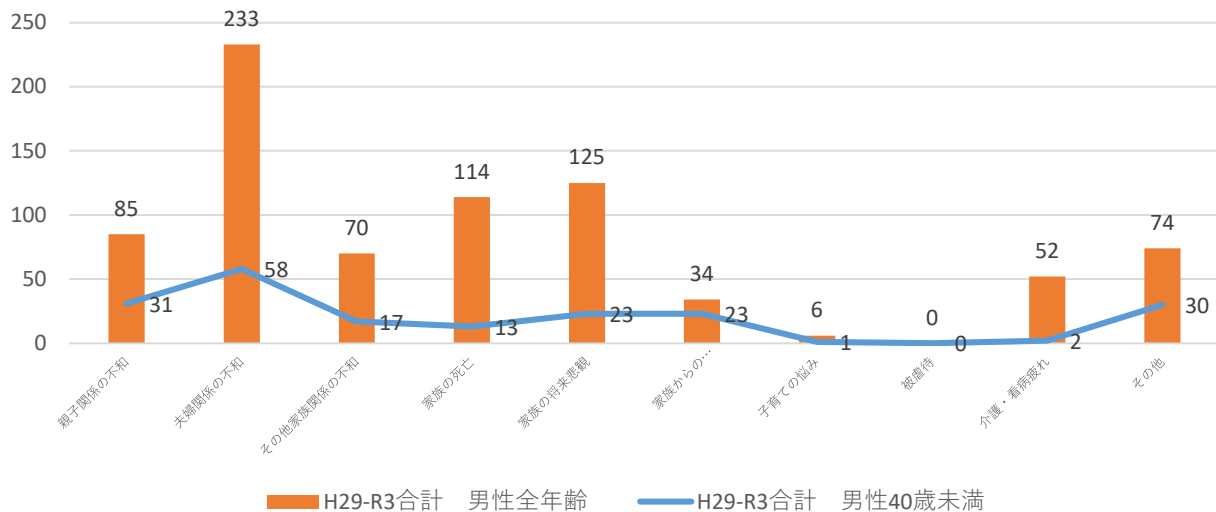
健康問題が最も多く、次いで不詳、家庭問題の順となっている。
 男女問題は令和元年より増加、家庭問題、経済・生活問題、不詳が令和2年より増加。
 令和2年に増加した健康問題、勤務問題、学校問題、その他が令和3年は減少。

出典：地域における自殺の基礎資料（各年）

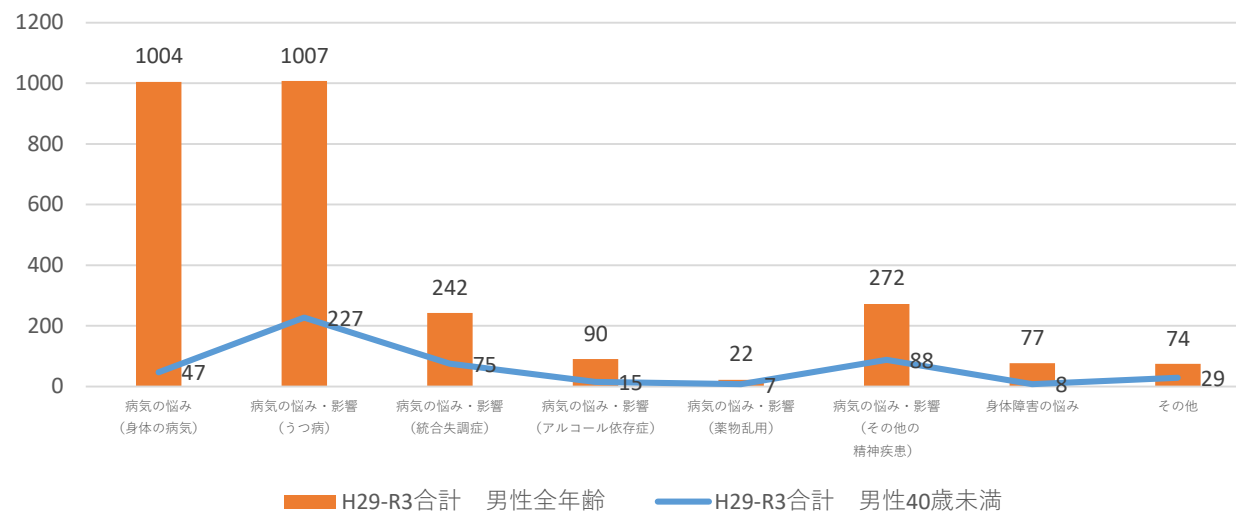
1. 自殺の推移

直近5年間の合計による原因・動機別自殺者数（小分類）
大分類の上位3項目のみ 厚生労働省提供特別集計より

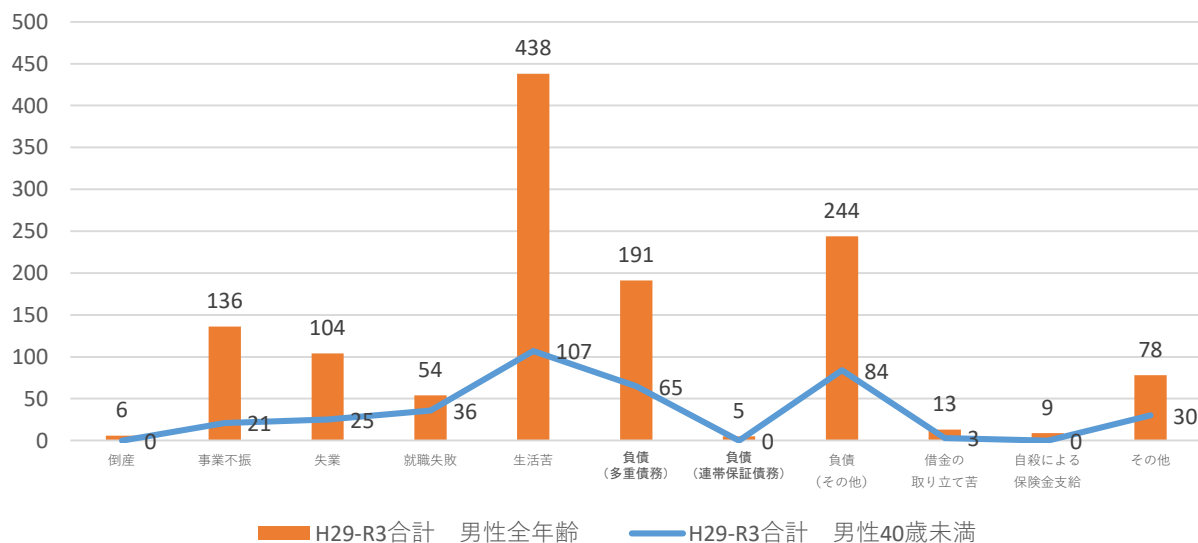
家庭問題 H29-R3合計 大阪・男性



健康問題 H29-R3合計 大阪・男性



経済・生活問題 H29-R3合計 大阪・男性



※遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる 原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上

出典：自殺統計原票データの特別集計・発見日住居地
(厚生労働省提供データから大阪府が作成)

【全年齢】

- ・家庭問題では、夫婦関係の不和が最も多い。
- ・健康問題では、うつ病と身体の病気が多い。
- ・経済・生活問題では生活苦が多い。
- ・全体的に見ると、うつ病と身体の病気が多く、次いで生活苦の順となっている。

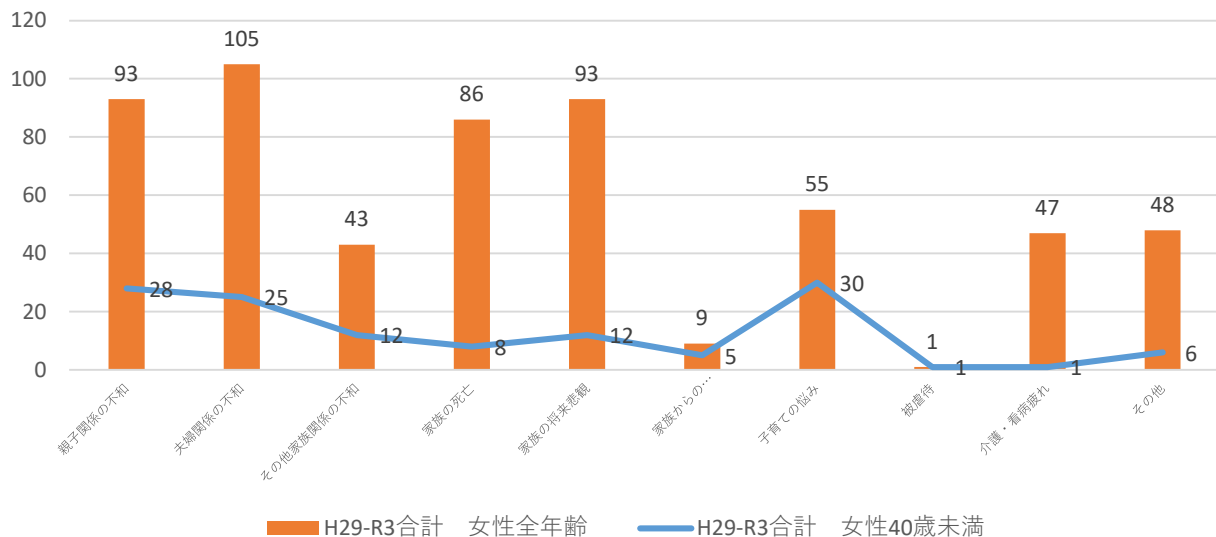
【40歳未満】

全体的に多い順に、うつ病、生活苦、その他精神疾患、負債（その他）、統合失調症となっている。

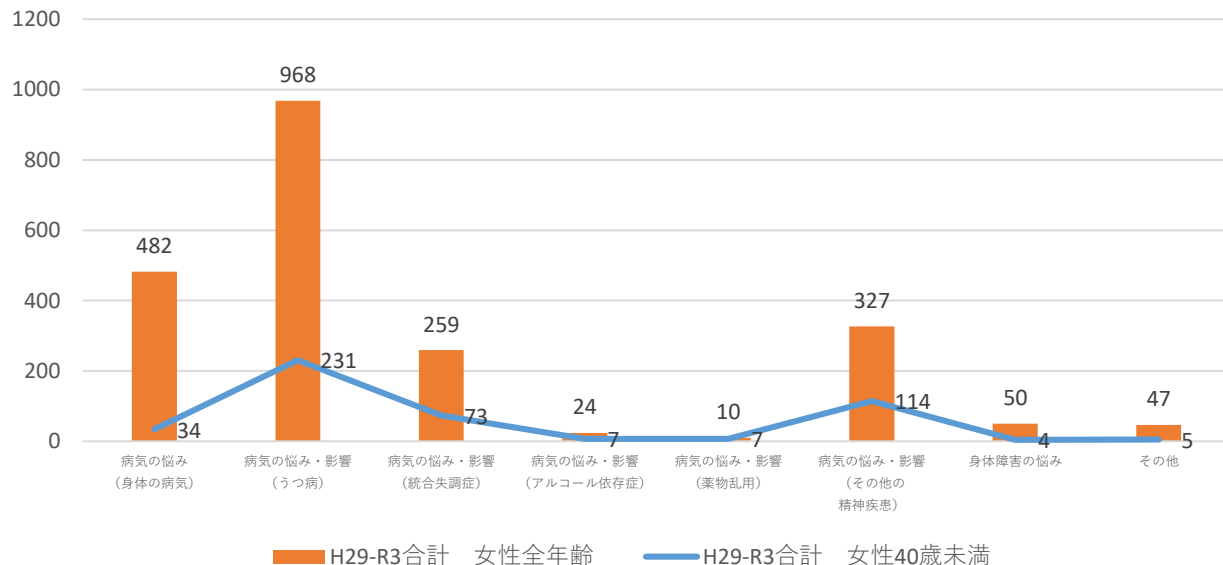
1. 自殺の推移

直近5年間の合計による原因・動機別自殺者数（小分類）
大分類の上位3項目のみ、厚生労働省提供特別集計より

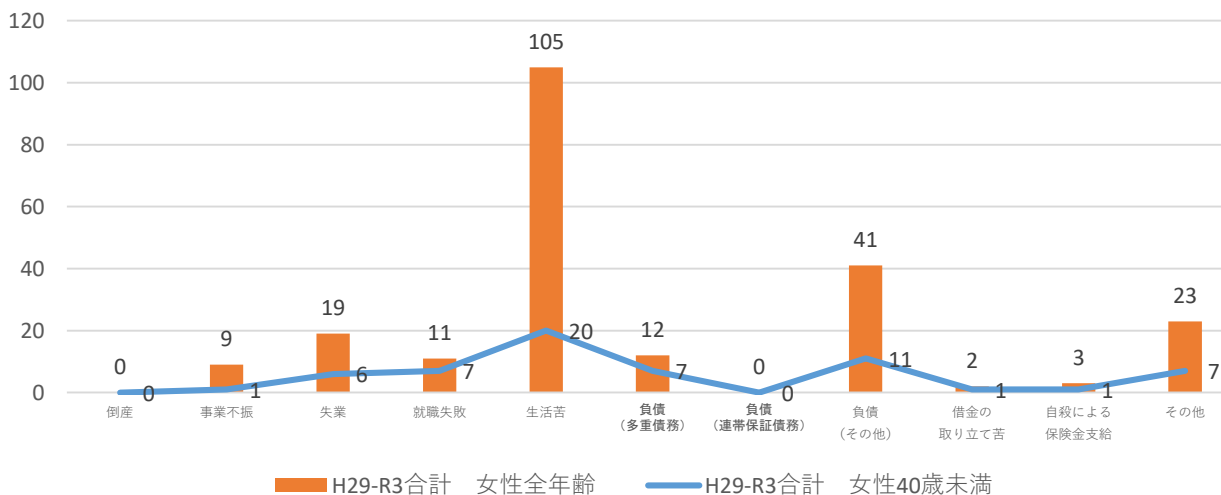
家庭問題H29-R3合計 大阪・女性



健康問題H29-R3合計 大阪・女性



経済・生活問題H29-R3合計 大阪・女性



※遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる 原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上

出典：自殺統計原票データの特別集計・発見日住居地 (厚生労働省提供データから大阪府が作成)

【全年齢】

- ・家庭問題では夫婦関係の不和が多い。
- ・健康問題ではうつ病が多い
- ・経済・生活問題では生活苦が多い。
- ・全体的には、うつ病、身体の病気、その他精神疾患など健康問題が上位を占める。

【40歳未満】

全体的に多い順に、うつ病、その他精神疾患、統合失調症、身体の病気、子育ての悩みの順となっている。²⁰

自殺の推移のまとめ

令和2年男女とも自殺者数が増加、令和3年は男女とも前年より減少したものの、新型コロナ流行前の令和元年より多く、高止まりとなっている。

【年齢階級別自殺者数の推移】

男性：20歳未満、70歳代、80歳代以上で増加傾向。

女性：20歳代が増加傾向。令和2年大きく増加した80歳以上は令和3年減少

【職業別自殺者数の推移】

男性：被雇用・勤め人、年金・雇用保険等生活者が増加傾向。

女性：学生生徒が増加傾向。

【原因・動機別自殺者数の推移】

男性：経済・生活問題、その他が増加傾向。令和2年増加した健康問題、家庭問題は令和3年減少。

女性：家庭問題と勤務問題、男女問題、学校問題が増加傾向。令和2年増加した健康問題は令和3年減少。

※原因・動機別自殺者数小分類（平成29年から令和3年の合計）

男性：全年齢では、うつ病と身体の病気が多く、次いで生活苦となっている。

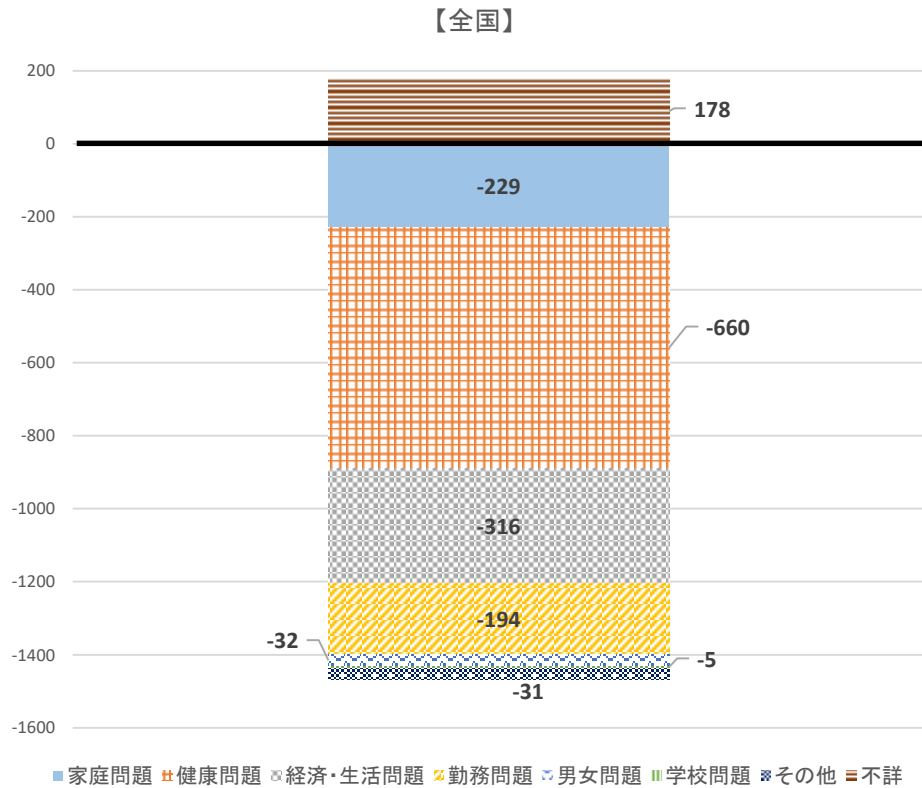
40歳未満では、うつ病、生活苦、その他精神疾患の順となっている。

女性：全年齢では、うつ病が最も多く、次いで身体の病気、その他の精神疾患の順で健康問題が上位を占める。

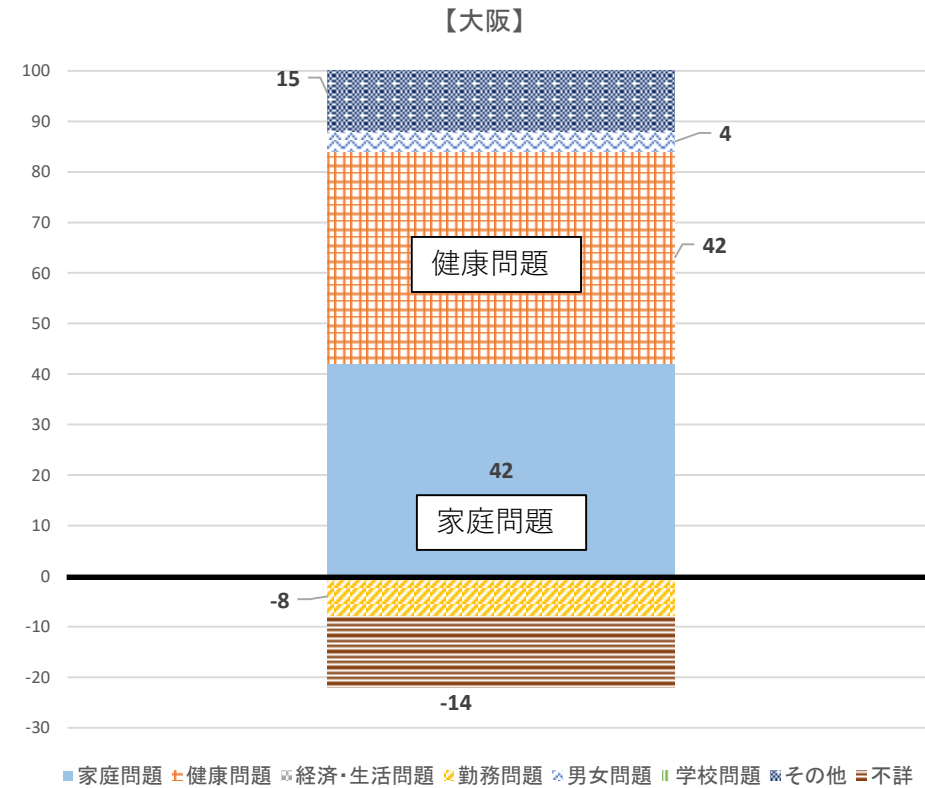
40歳未満では、うつ病、その他の精神疾患、統合失調症の順で、健康問題の精神的な疾患が上位を占める。

2. 令和2年における自殺者増加の状況推移

原因・動機別に見た全国と大阪の令和2年自殺者数と過去5年平均の増減比較（男性）



出典：令和3年度版自殺対策白書 第2-3-11図

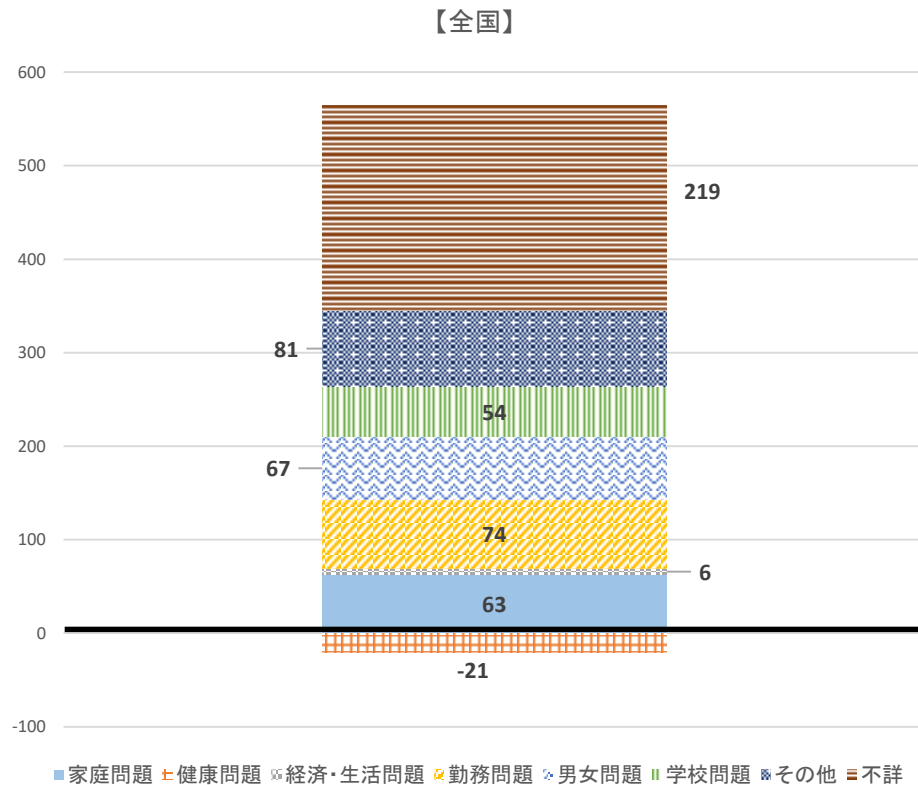


出典：自殺統計原票データの特別集計・発見日住居地
(厚生労働省提供データから大阪府が作成)

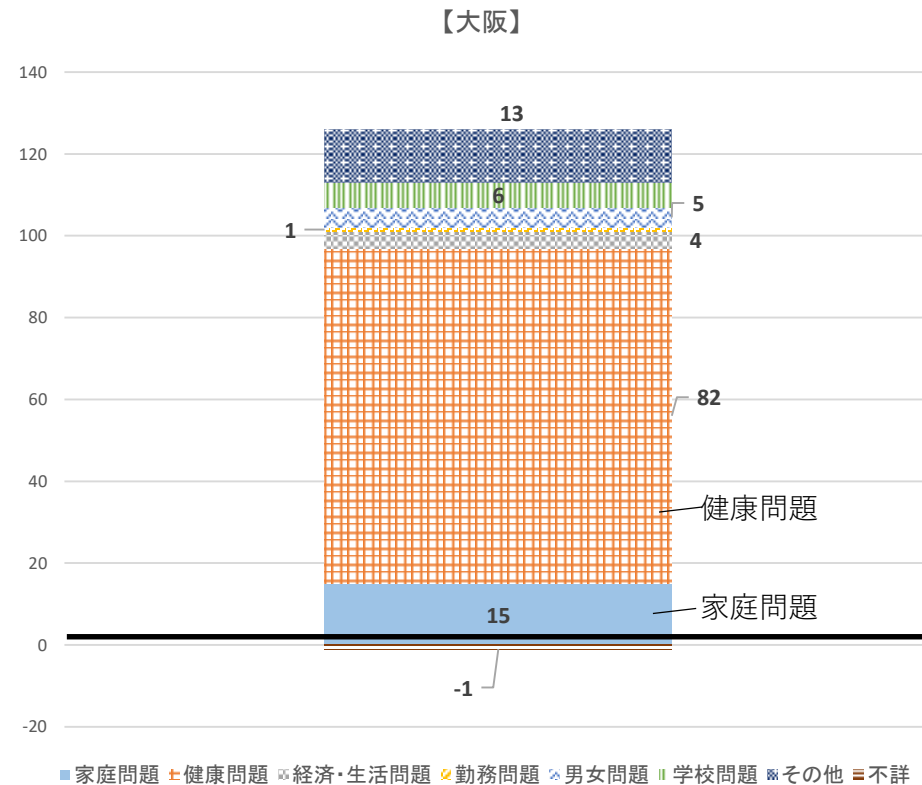
- 全国は「不詳」を除いて減少 大阪は「勤務問題」「不詳」を除いて増加

2. 令和2年における自殺者増加の状況推移

原因・動機別に見た全国と大阪の令和2年自殺者数と過去5年平均の増減比較（女性）



出典：令和3年度版自殺対策白書 第2-3-17図



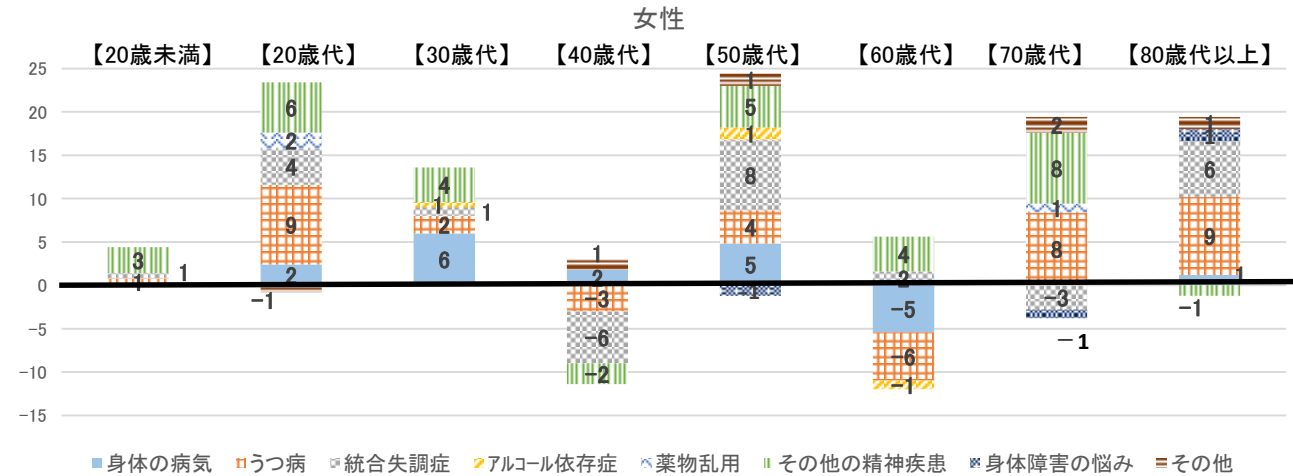
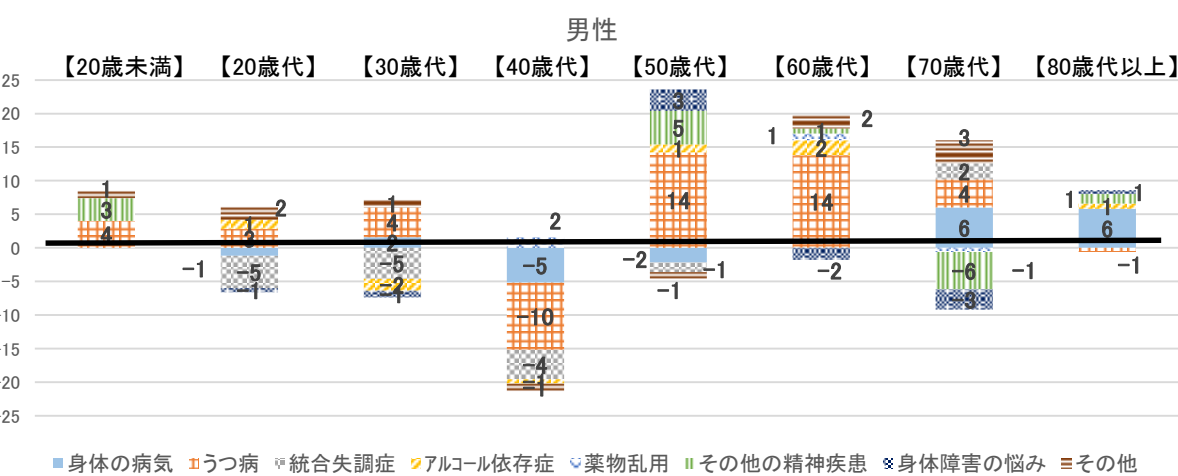
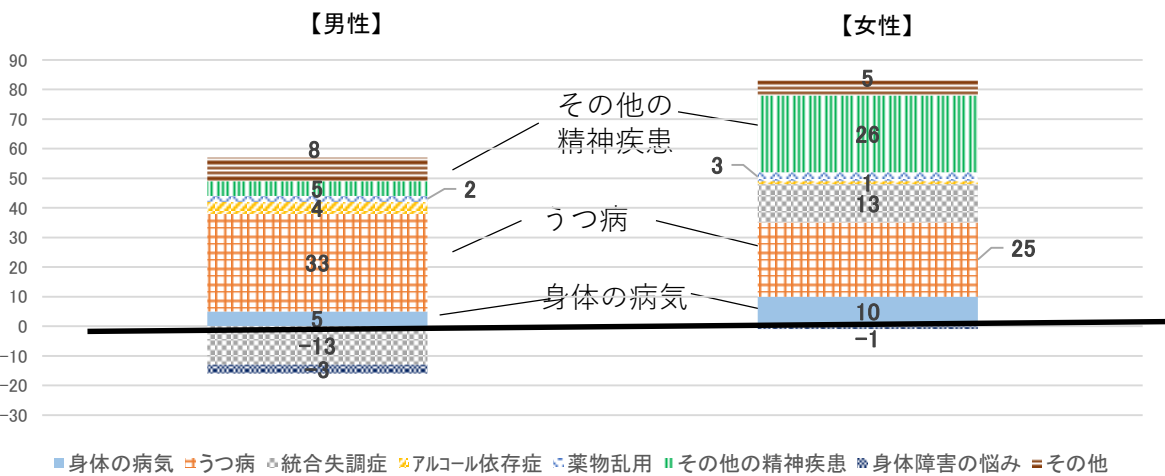
出典：自殺統計原票データの特別集計・発見日住居地（厚生労働省提供データから大阪府が作成）

- 全国は「健康問題」を除いて増加 大阪は「不詳」を除いて増加 23

2. 令和2年における自殺者増加の状況推移

健康問題を原因・動機とする令和2年自殺者数と過去5年平均の増減比較（大阪府）

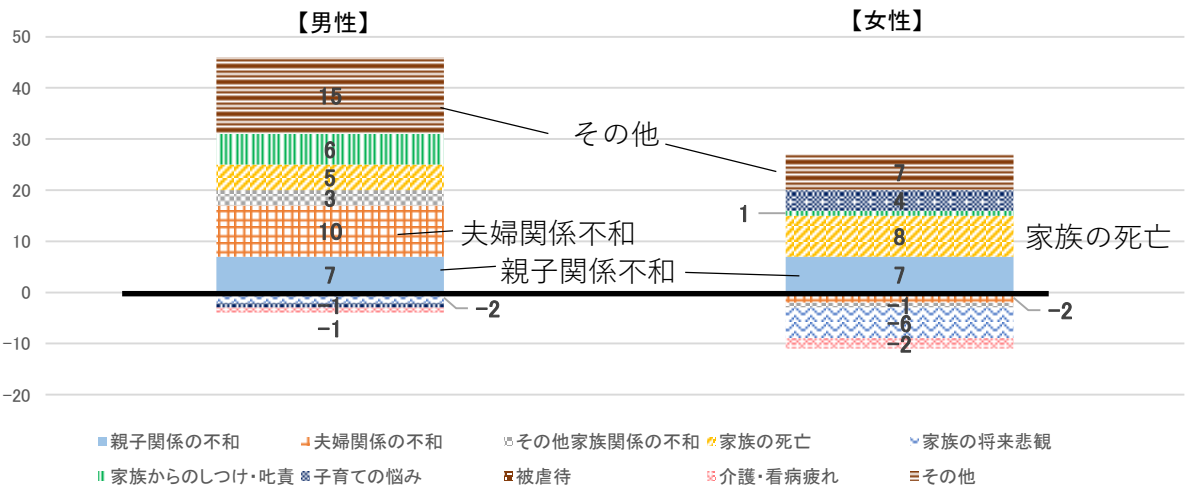
- 女性のほうが男性より増加が大きく、男女ともに「うつ病」の増加が最多。
- 男性は50歳代以上で増加が大きく、70歳代以上では「うつ病」よりも「身体の病気」が多い。
- 女性は20歳代・50歳代・70歳代以上の増加が大きく、男性と異なり、高齢者では「うつ病」が多い。



※平均値は、各値ごとに四捨五入しているため、性・年代別の各項目の増減値の合計（下グラフ）と、男女別の合計（上グラフ）は必ずしも一致しない。

2. 令和2年における自殺者増加の状況推移

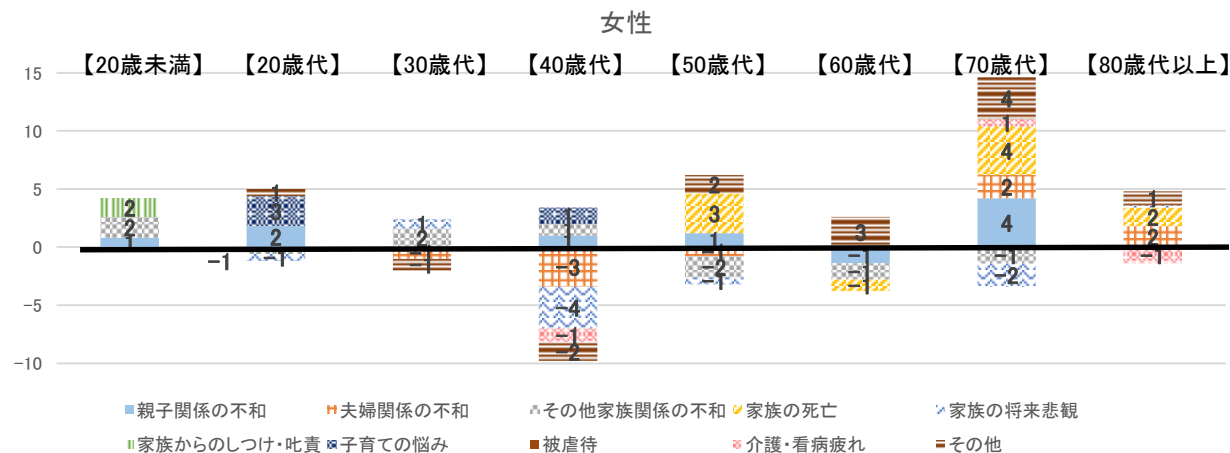
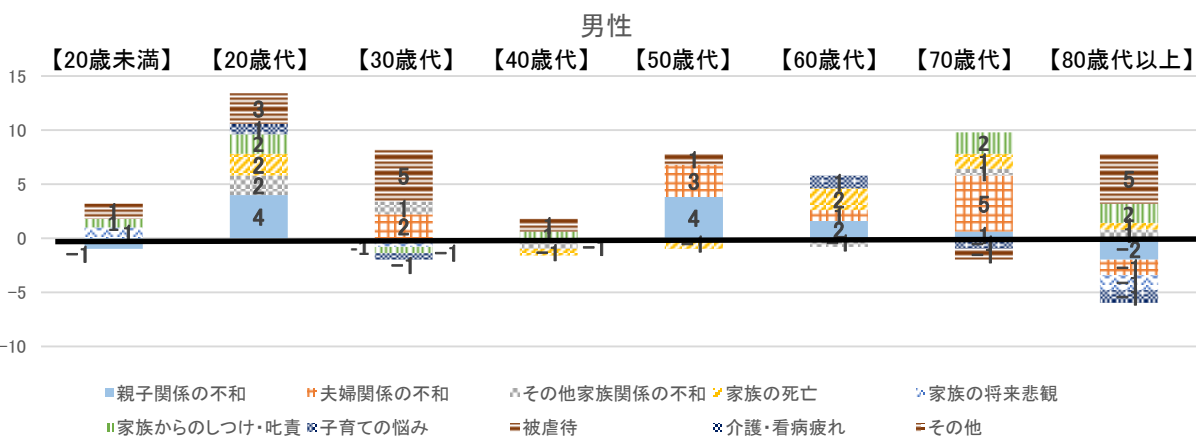
家庭問題を原因・動機とする令和2年自殺者数と過去5年平均の増減比較（大阪府）



○男性のほうが増加が大きく、男性では「その他」、女性では「家族の死亡」の増加が最多。

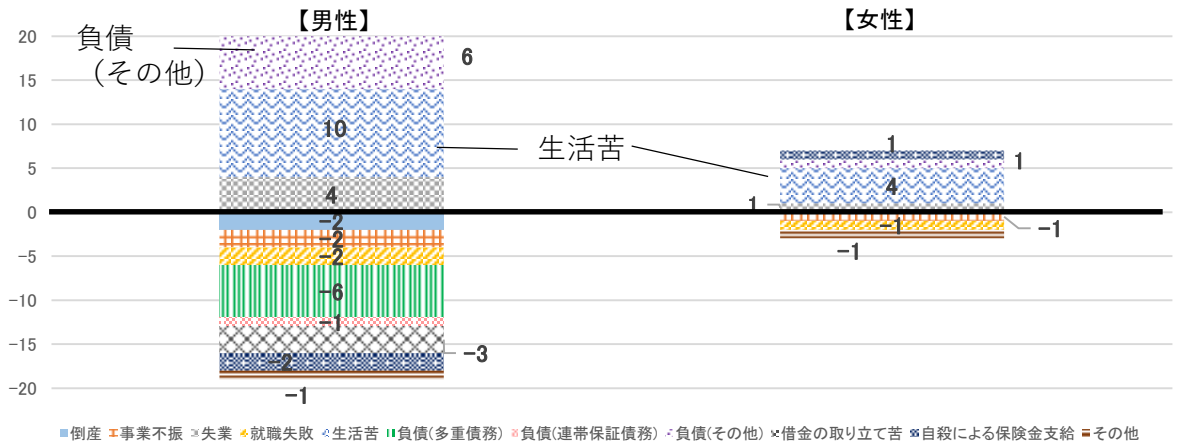
○男性は20歳代・70歳代で増加が大きく、20歳代では「親子関係の不和」、70歳代では「夫婦関係の不和」が最多。

○女性は70歳代で増加が大きく、「親子関係の不和」「家族の死亡」「その他」が最多。

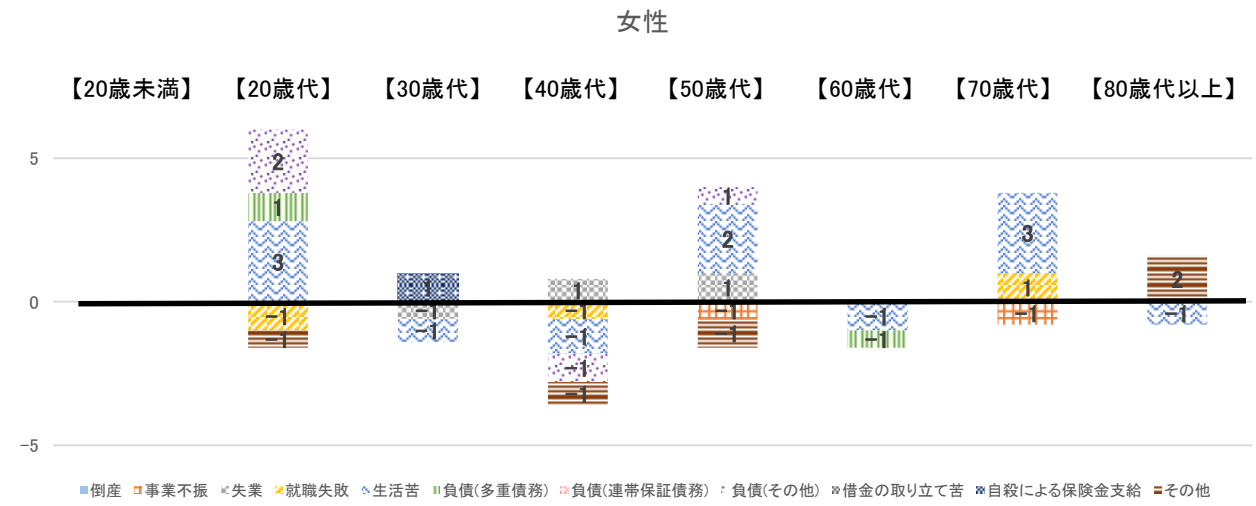
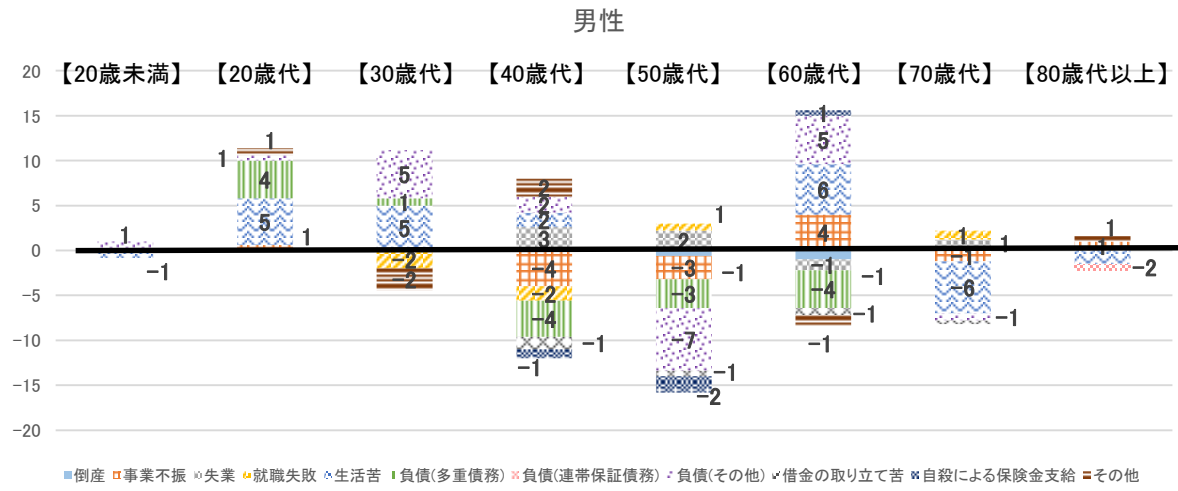


2. 令和2年における自殺者増加の状況推移

経済・生活問題を原因・動機とする令和2年自殺者数と過去5年平均の増減比較（大阪府）



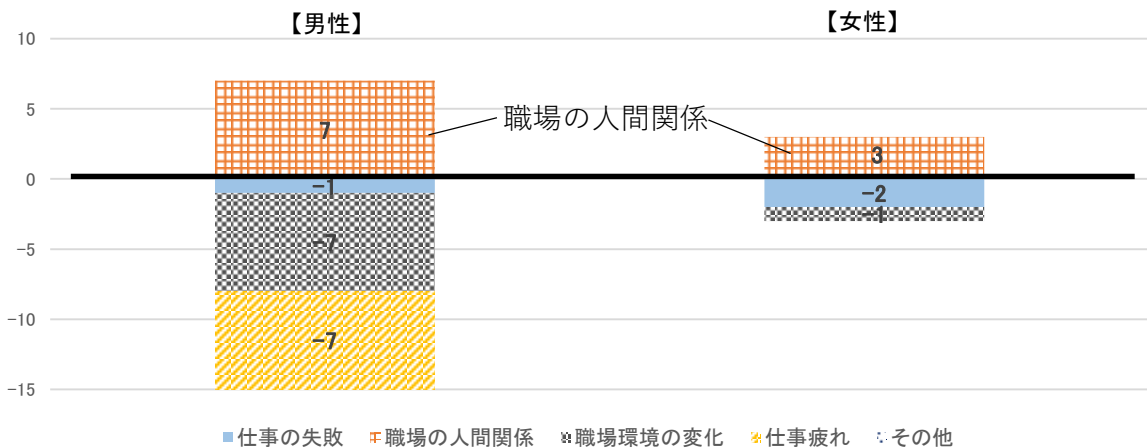
- 男性の方が増加が大きく、男女ともに「生活苦」の増加が最多。
- 男性は20歳代・30歳代・60歳代で増加が大きく、いずれも「生活苦」の増加が最多。
- 女性は20歳代・50歳代・70歳代で増加が大きく、男性と同様、「生活苦」の増加が最多。



※平均値は、各値ごとに四捨五入しているため、性・年代別の各項目の増減値の合計（下グラフ）と、男女別の合計（上グラフ）は必ずしも一致しない。

2. 令和2年における自殺者増加の状況推移

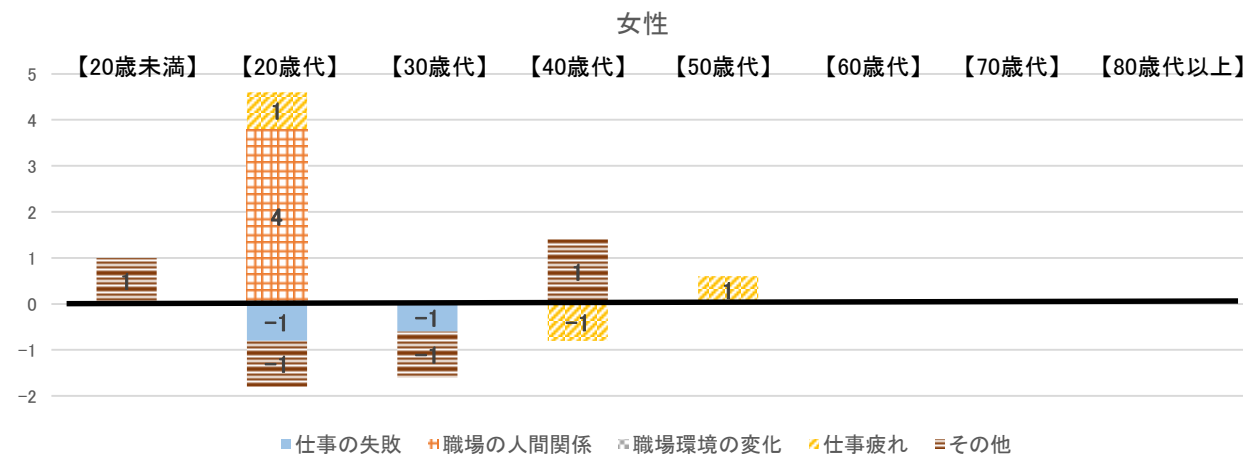
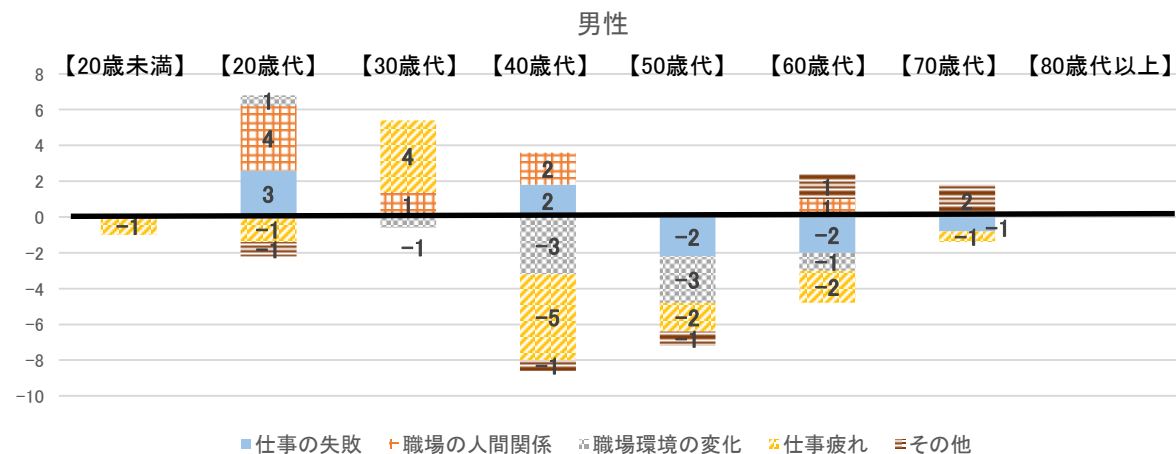
勤務問題を原因・動機とする令和2年自殺者数と過去5年平均の増減比較（大阪府）



○男性の方が増加が大きく、男女ともに「職場の人間関係」のみが増加。

○男性は20歳代・30歳代で増加が大きく、20歳代は「職場の人間関係」、30歳代は「仕事疲れ」の増加が最多。

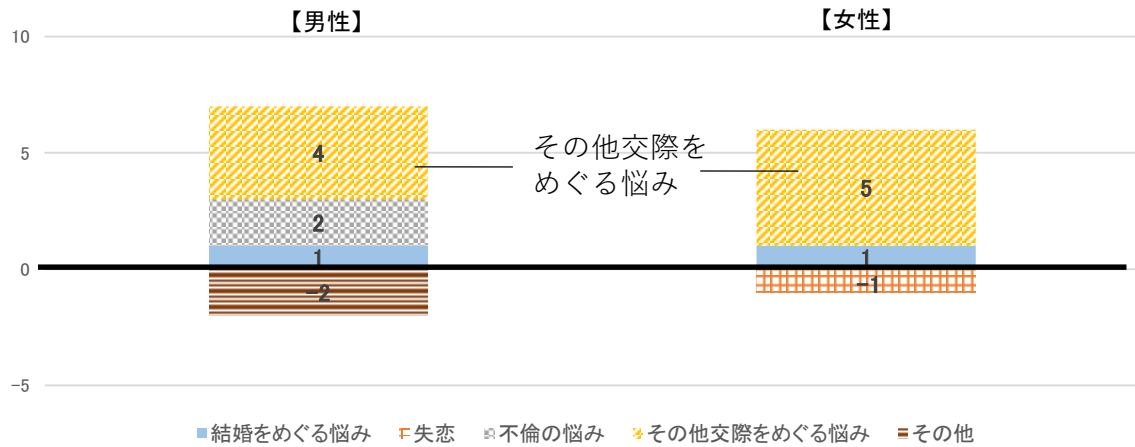
○女性は20歳代で増加が大きく、男性20歳代と同様、「職場の人間関係」の増加が最多。



※平均値は、各値ごとに四捨五入しているため、性・年代別の各項目の増減値の合計（下グラフ）と、男女別の合計（上グラフ）は必ずしも一致しない。

2. 令和2年における自殺者増加の状況推移

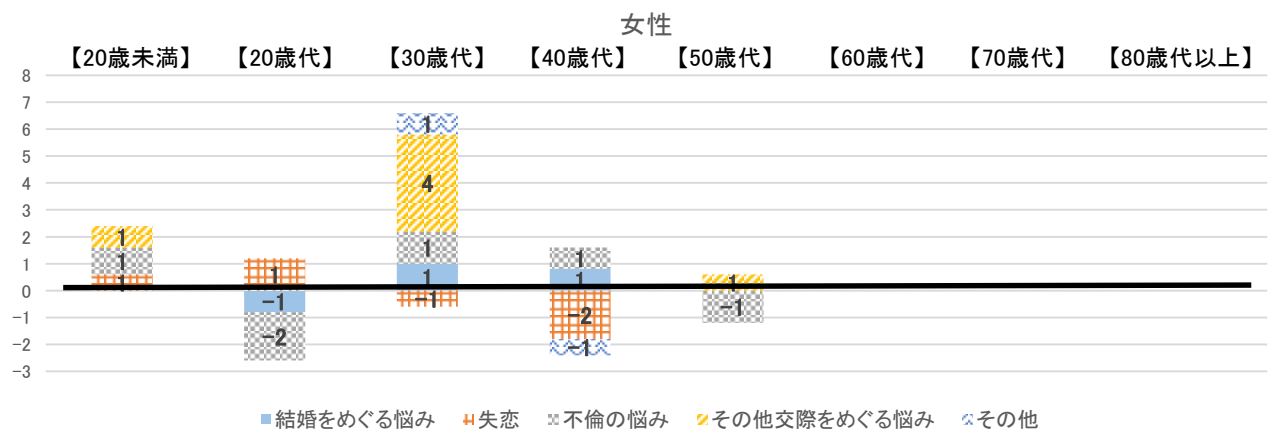
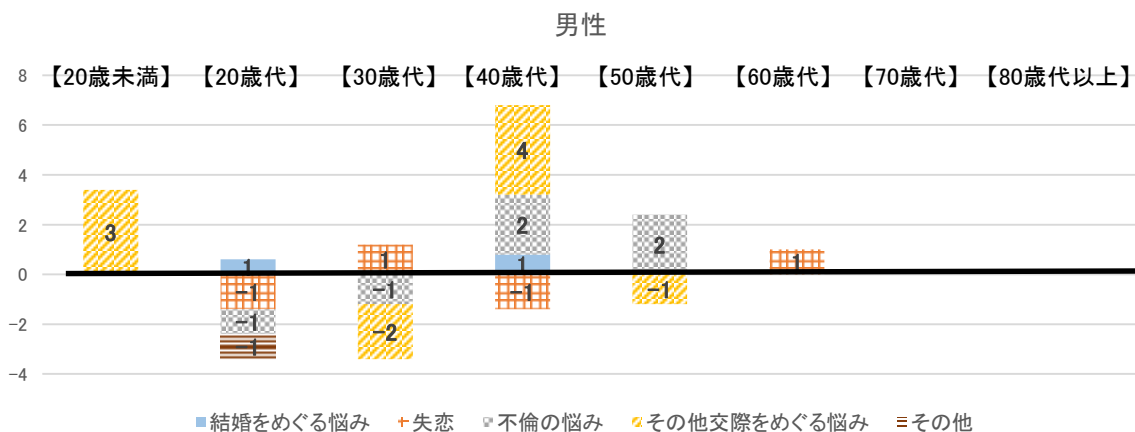
男女問題を原因・動機とする令和2年自殺者数と過去5年平均の増減比較（大阪府）



○増加数は男女で差がなく、男女ともに「その他交際をめぐる悩み」の増加が最多。

○男性は40歳代で増加が大きく、「その他交際をめぐる悩み」の増加が最多。

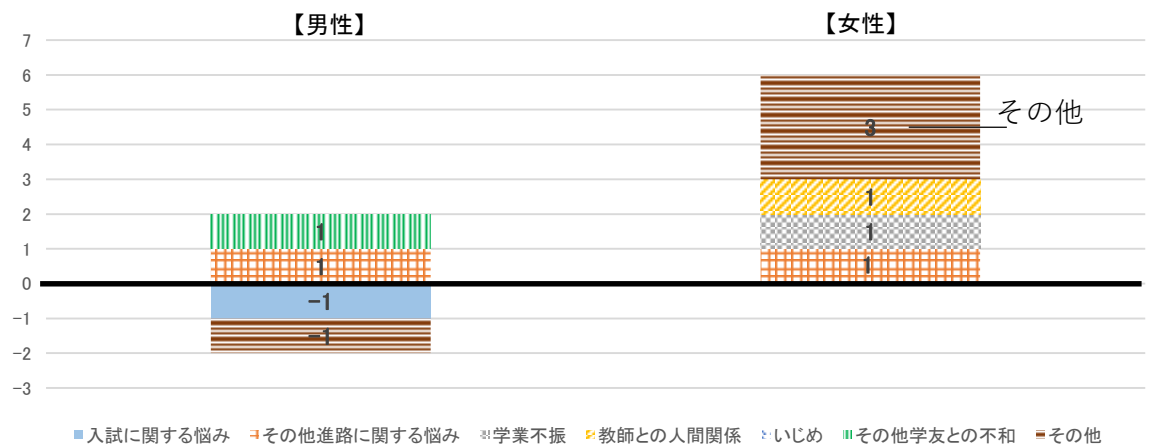
○女性は30歳代で増加が大きく、男性40歳代同様、「その他交際をめぐる悩み」の増加が最多。



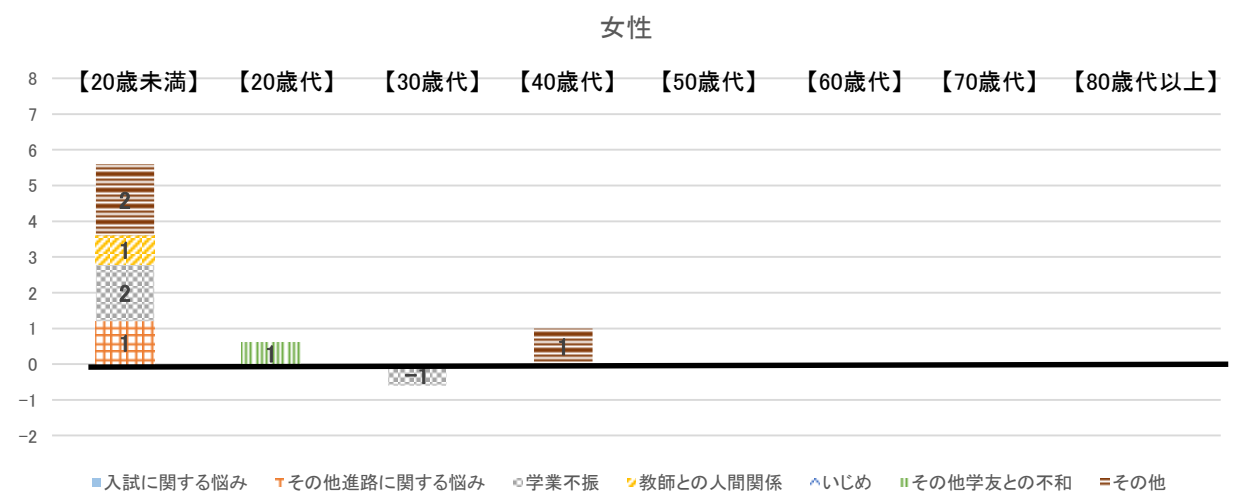
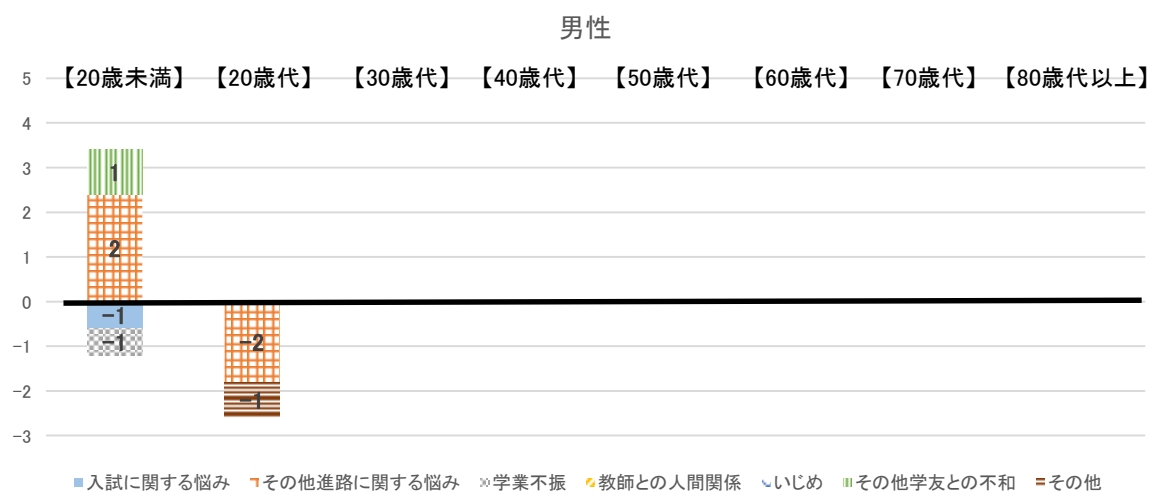
※平均値は、各値ごとに四捨五入しているため、性・年代別の各項目の増減値の合計（下グラフ）と、男女別の合計（上グラフ）は必ずしも一致しない。

2. 令和2年における自殺者増加の状況推移

学校問題を原因・動機とする令和2年自殺者数と過去5年平均の増減比較（大阪府）



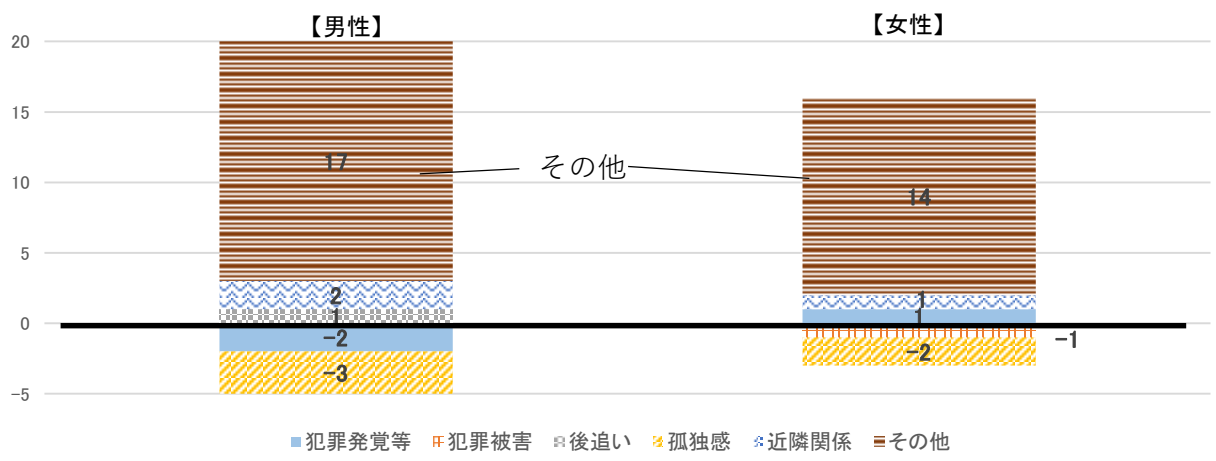
- 女性の方が増加が大きく、「その他」が多い。
- 男女ともに20歳未満の増加が最多。男性は「その他進路に関する悩み」が最多だが、女性は「学業不振」「その他」が最多。
- 20歳代では、男性が減少する一方、女性は増加。



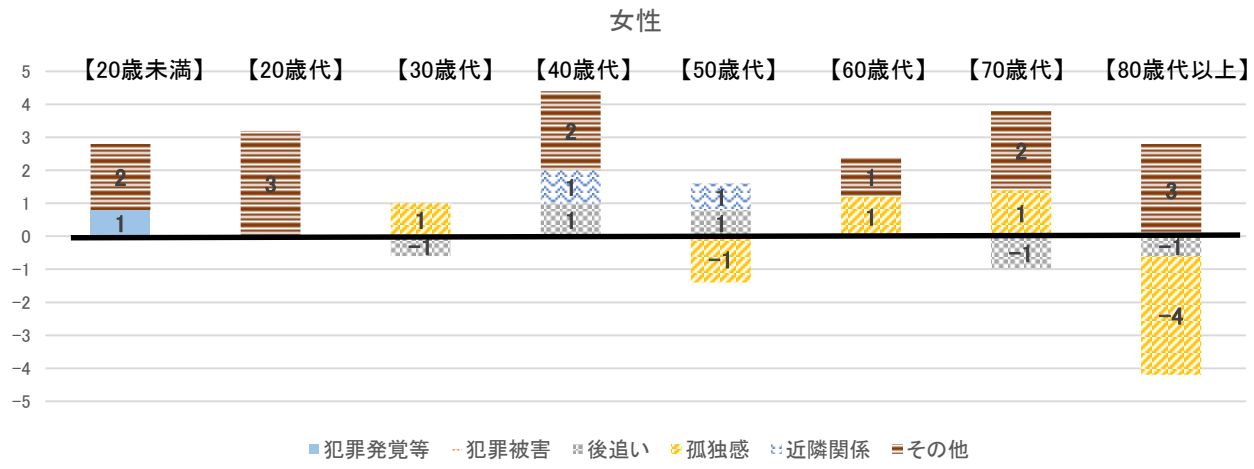
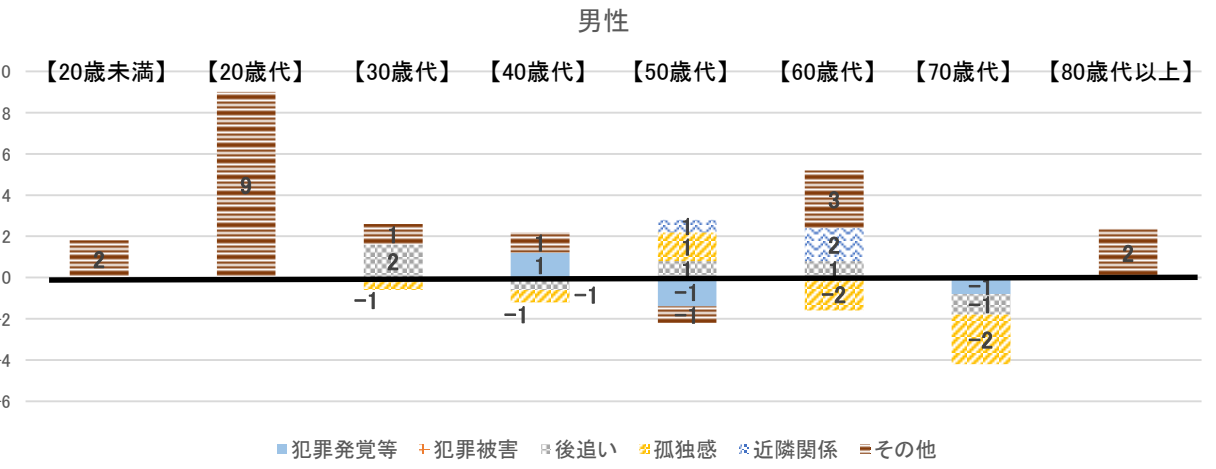
※平均値は、各値ごとに四捨五入しているため、性・年代別の各項目の増減値の合計（下グラフ）と、男女別の合計（上グラフ）は必ずしも一致しない。

2. 令和2年における自殺者増加の状況推移

その他を原因・動機とする令和2年自殺者数と過去5年平均の増減比較（大阪府）



- 男女ともに「その他」の増加が最多。
- 男性は20歳代で増加が大きく、全件が「その他」を原因・動機としている。
- 女性は40歳代で増加が大きく、「健康問題」「家庭問題」では減少幅が大きかった年代であることを考えると特徴的。

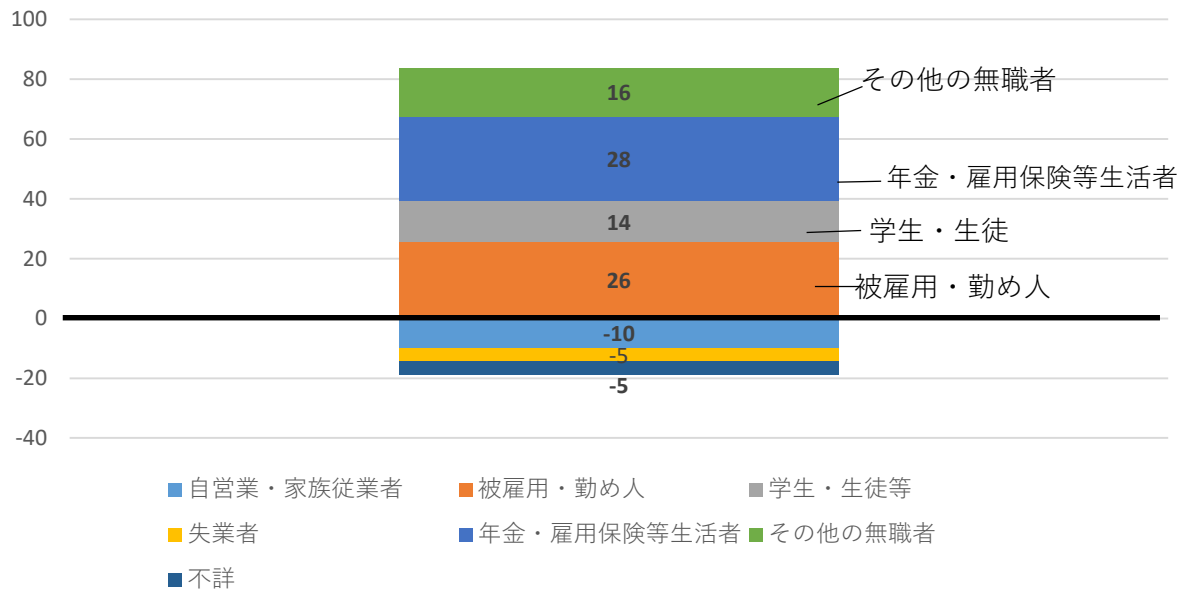


※平均値は、各値ごとに四捨五入しているため、性・年代別の各項目の増減値の合計（下グラフ）と、男女別の合計（上グラフ）は必ずしも一致しない。

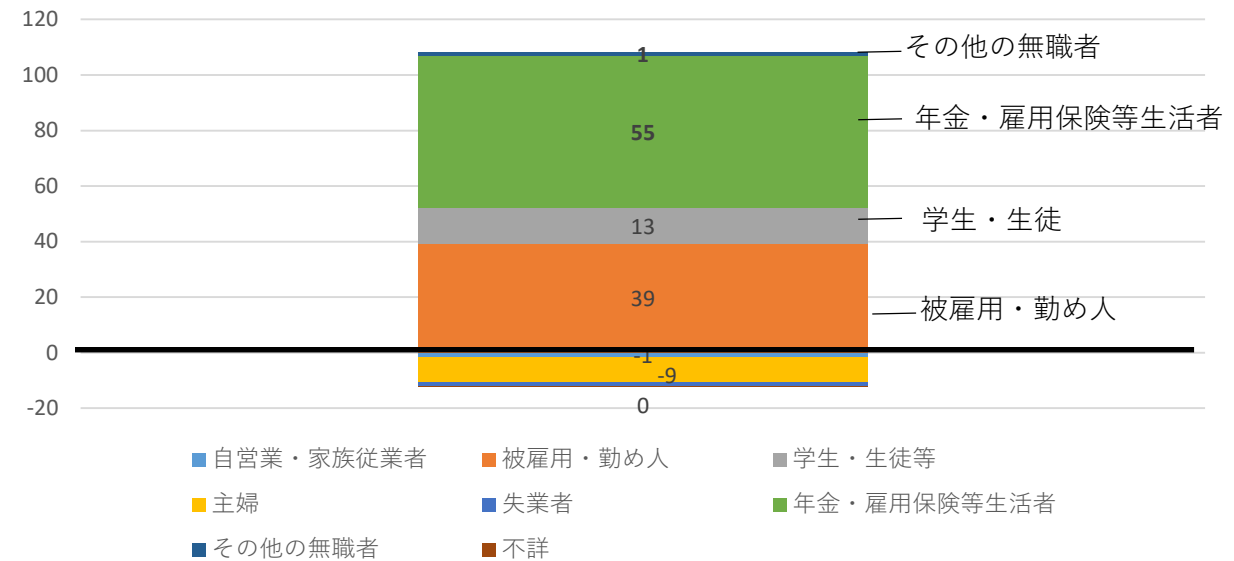
2. 令和2年における自殺者増加の状況推移

職業別に見た令和2年自殺者数と過去5年平均との増減比較

【大阪・男性】



【大阪・女性】



出典：地域における自殺の基礎資料（各年をもとに作成）

○男性は、自営業・家族従事者、失業者、不詳を除いて増加。

○女性は、自営業・家族従事者、主婦、失業者、不詳を除いて増加。

○男女とも、最も増加が大きいのは、年金雇用保険等生活者で次いで被雇用・勤め人となっている。

2. 令和2年における自殺者増加の状況推移

職業別（有職者・職業中分類）に見た令和2年自殺者数と過去5年平均との増減比較

男性	R2年		過去5年平均自殺者数	R2-過去5年平均
	順位	自殺者数		
自営業・家族従事者	1位	59	67.6	-8.6
技能工	2位	54	40.8	13.2
労務作業	3位	51	38.8	12.2
その他の有職者	4位	38	43	-5
専門・技術職	5位	31	28.8	2.2
販売従業者	5位	31	23	8
通信運輸従事者	7位	26	13.8	12.2
サービス業従事者	8位	24	30	-6
管理的職業	9位	14	19	-5
事務職	10位	10	17.4	-7.4
保安従事者	11位	7	6.6	0.4

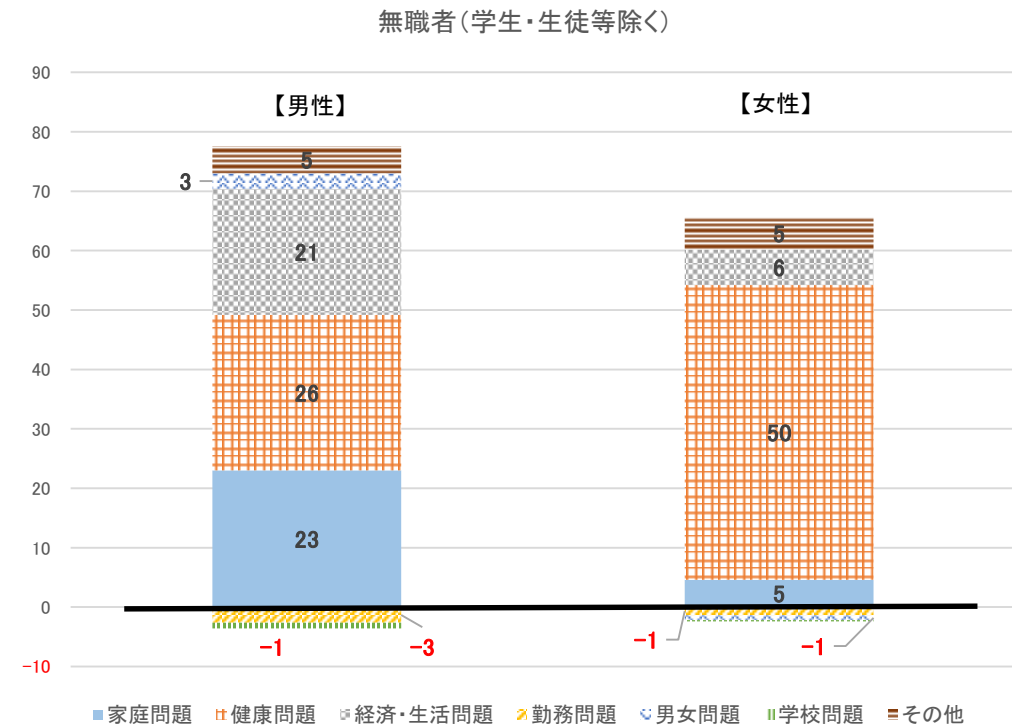
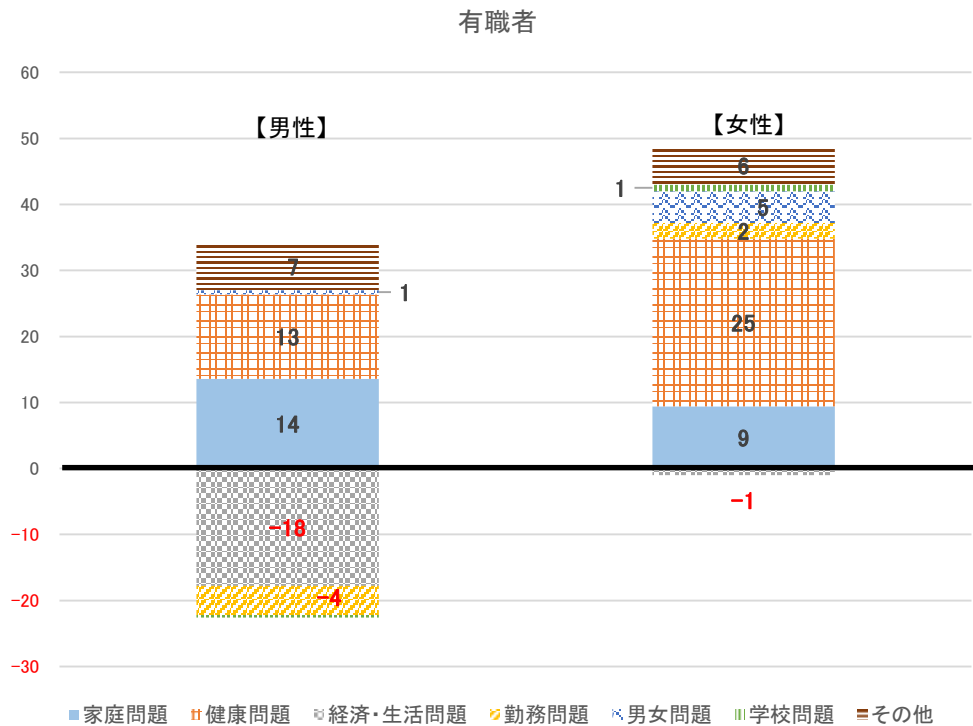
女性	R2年		過去5年平均自殺者数	R2-過去5年平均
	順位	自殺者数		
サービス業従事者	1位	34	16	18
専門・技術職	2位	19	11.6	7.4
事務職	3位	17	13.6	3.4
販売従業者	3位	17	6.4	10.6
その他の有職者	5位	11	14.6	-3.6
自営業・家族従事者	6位	10	11.6	-1.6
技能工	7位	3	2.8	0.2
労務作業	7位	3	3	0
通信運輸従事者	9位	2	0.4	1.6
管理的職業	10位	0	1.4	-1.4
保安従事者	10位	0	0.4	-0.4

出典：自殺統計原票データの特別集計・発見日住居地
（厚生労働省提供データから大阪府が作成）

- 男性 技能工、労務作業、通信運輸従事者で増加が大きい。
- 女性 サービス業従事者、販売従業者、専門・技術職で増加が大きい。

2. 令和2年における自殺者増加の状況推移

有職者・無職者の令和2年自殺者数と過去5年平均との増減比較

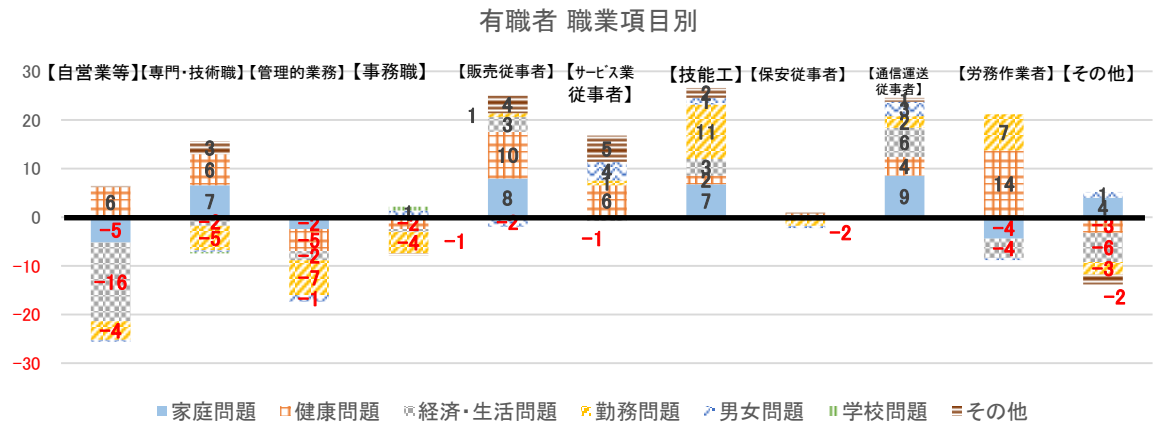


出典：自殺統計原票データの特別集計・発見日住居地
(厚生労働省提供データから大阪府が作成)

- 有職者・無職者ともに、男性が「健康問題」「家庭問題」、女性が「健康問題」の増加が大きい。
- さらに、無職者では「経済・生活問題」が増加。

2. 令和2年における自殺者増加の状況推移

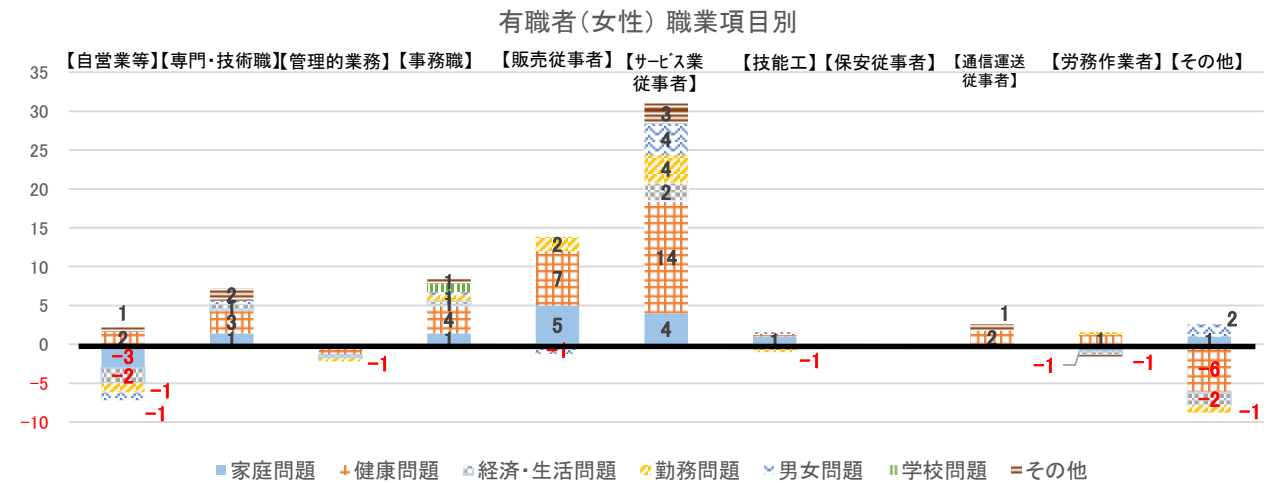
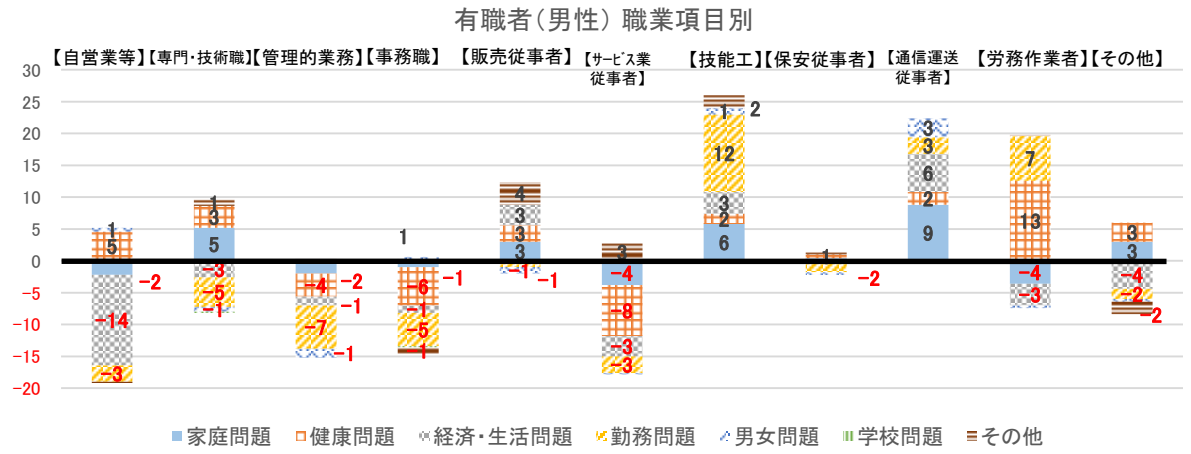
有職者（職業項目別）の令和2年自殺者数と過去5年平均の増減比較



○男性では「技能工」「通信運送従事者」「労務作業者」、女性では「サービス業従事者」の増加が大きい。

○「技能工」は「勤務問題」、「通信運送従事者」は「家庭問題」、「サービス業従事者」「労務作業者」は「健康問題」の増加が大きい。

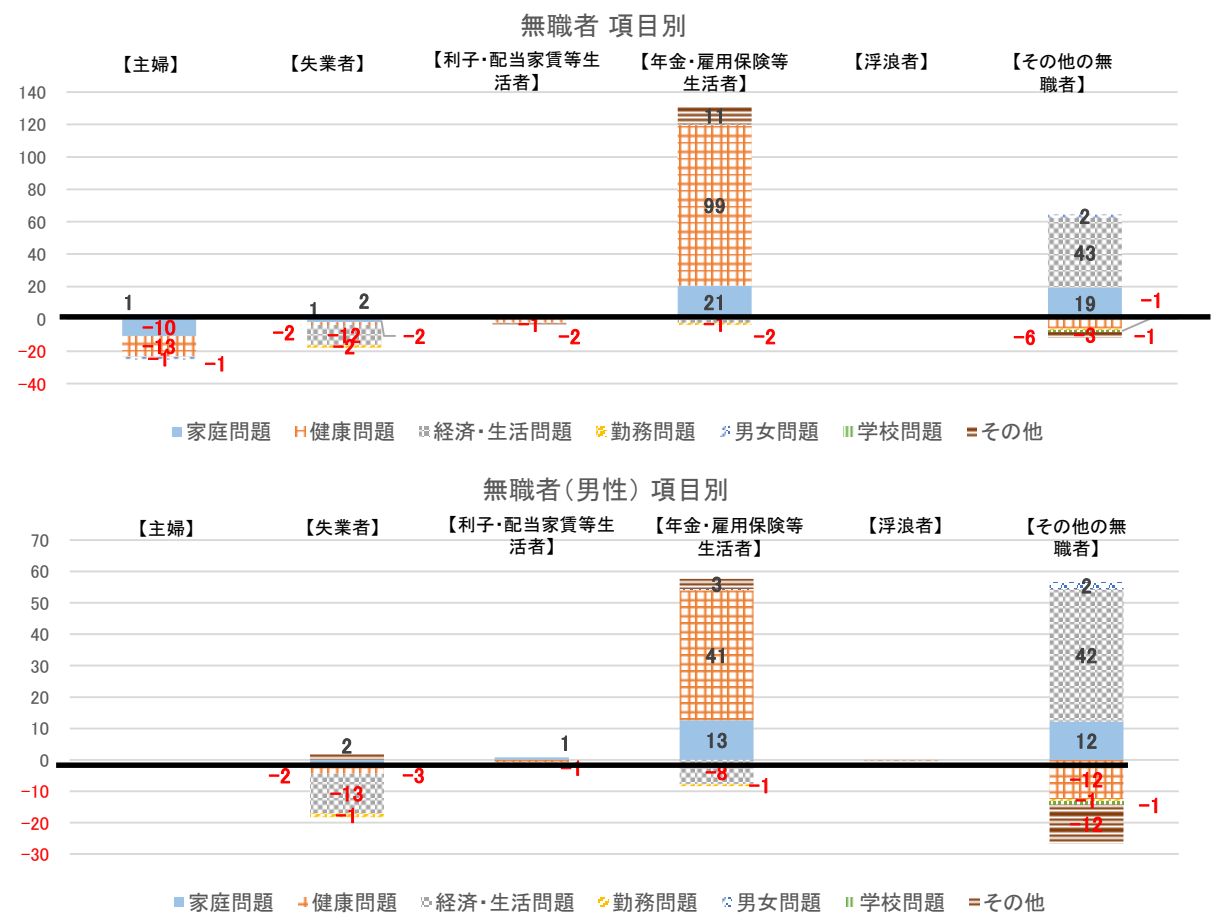
○男女ともに増加しているのは「専門・技術職」「販売従事者」で、「家庭問題」「健康問題」が主たる原因・動機。



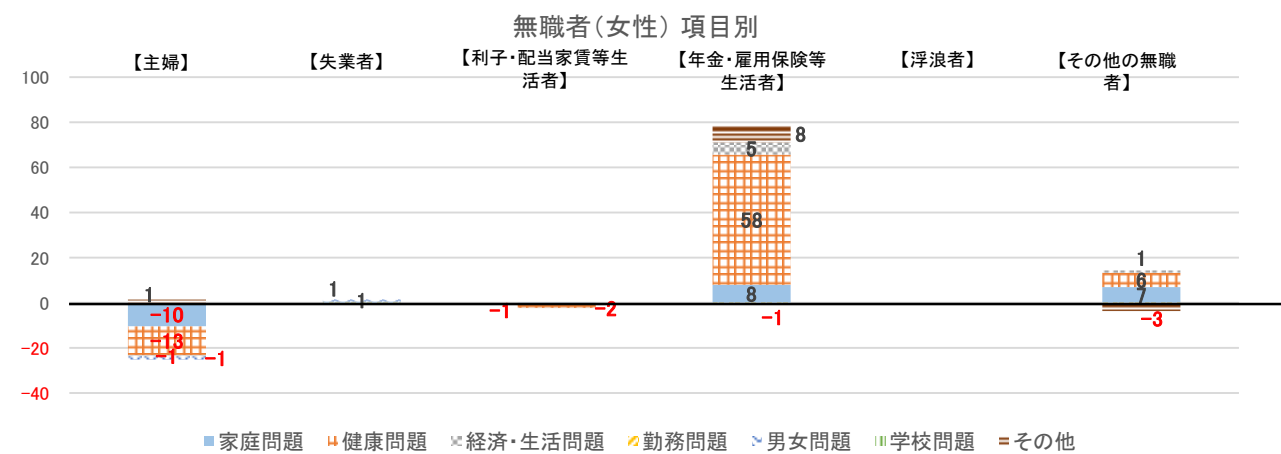
※平均値は、各値ごとに四捨五入しているため、有職者（男性及び女性）職業項目別（下グラフ）の各項目の増減値の合計と、有職者職業項目別の値（上グラフ）は必ずしも一致しない。

2. 令和2年における自殺者増加の状況推移

無職者（学生・生徒等除く）の令和2年自殺者数と過去5年平均の増減比較



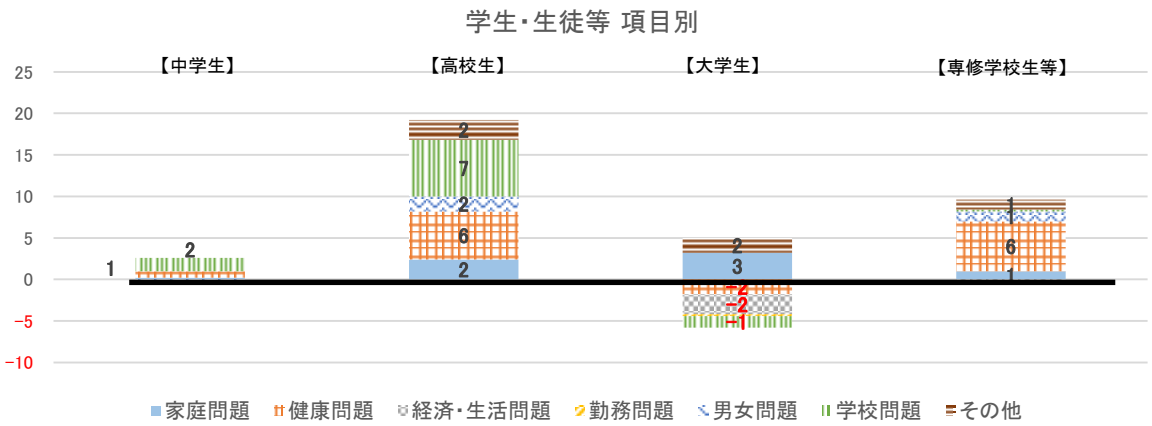
- 男女ともに「年金・雇用保険等生活者」の増加が大きく、「健康問題」が主たる原因・動機。
- 男性は「その他の無職者」も大きく増加しており、主たる原因・動機は「経済・生活問題」。
- 「年金・雇用保険等生活者」「その他の無職者」ともに、女性に比べて男性は、「家庭問題」が多い。



※平均値は、各値ごとに四捨五入しているため、無職者（男性及び女性）項目別（下グラフ）の各項目の増減値の合計と、無職者項目別の値（上グラフ）は必ずしも一致しない。

2. 令和2年における自殺者増加の状況推移

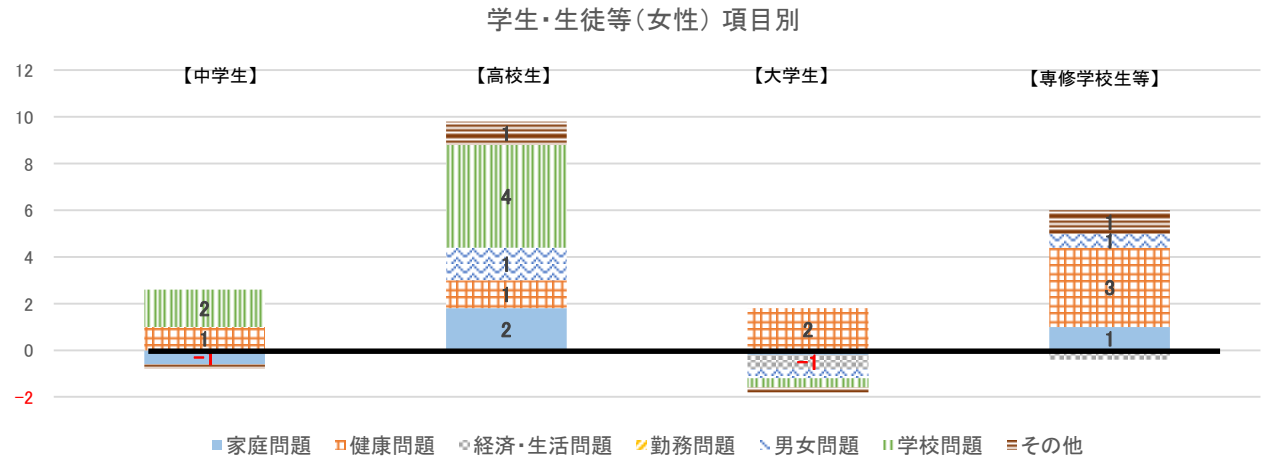
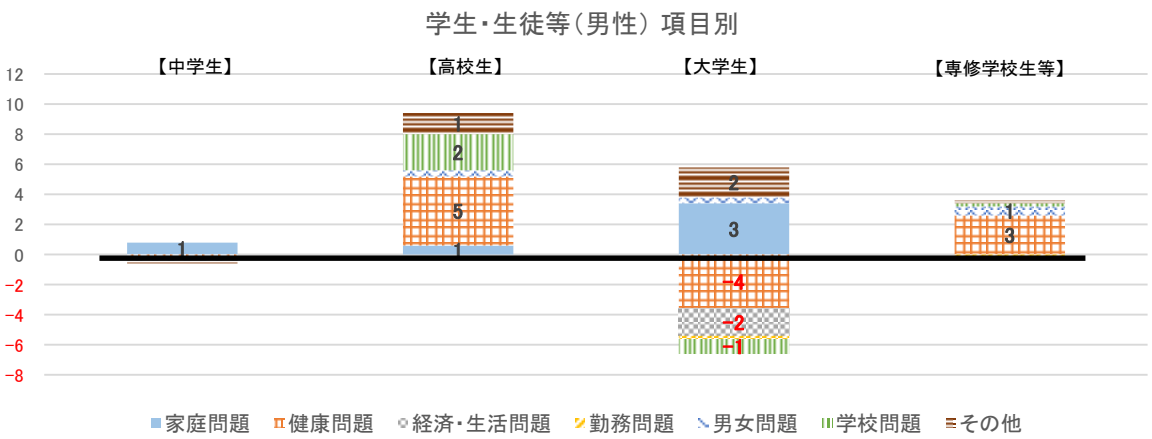
学生・生徒等の令和2年自殺者数と過去5年平均の増減比較



○男女ともに「高校生」の増加が大きく、男性では「健康問題」、女性では「学校問題」が主たる原因・動機。

○男性は「大学生」「専修学校生等」でも増加しており、主たる原因・動機は前者が「家庭問題」、後者が「健康問題」。

○女性は「高校生」以外でも増加しており、「大学生」「専修学校生等」の主たる原因・動機は「健康問題」。



※平均値は、各値ごとに四捨五入しているため、学生・生徒等（男性及び女性）項目別（下グラフ）の各項目の増減値の合計と、学生・生徒等項目別の値（上グラフ）は必ずしも一致しない。

3. 既遂者の背景

○大阪府監察医事務所では、届け出のあった異状死のうち、警察判断により事件性の否定された事例を検案（大阪市内発生事例）
 ○2019年～2021年の死亡者のうち、大阪府監察医事務所「自殺」と判断された死亡者の個別の事例（検案要請書や検案より得られたデータ）を分析し、事例に含まれているそれぞれの因子に関連性が見られたものから既遂者の主なプロフィールを推定。

【大阪府監察医事務所個別事例（2020年～2021年）から推定された既遂者の主なプロフィール】

性別	年代	職業	背景
男性	—	自営業	経営難 + 『死にたい』発言 + 計画的既遂行動
男性	—	無職	経済問題 + 夫婦問題 + 習慣飲酒
男性	—	—	夫婦問題 + 対人関係希薄 + 直前に飲酒 + 突発的既遂行動
男性	30～40代	—	アルコール（習慣・直前） + 男女問題、夫婦問題、仕事関係、犯罪行為 ± 精神疾患
男性	30～40代	無職	経済問題 + 習慣飲酒 + 対人トラブルなし
男性	30～40代	無職	精神的不安定（抑うつ傾向、ひきこもり、対人関係希薄、職場の人間関係、精神面による退職） + 『死にたい』発言
男性	30～40代	無職	生活孤立（腐敗発見）・ひきこもり → 動機不明
男性	30～40代	被雇用	仕事上の悩み + 夫婦問題（DV加害） + アルコール（習慣・直前） + 『死にたい』発言
男性	30～65歳	自営業	業績悪化 + コロナの影響※

●男性全体の特徴：コロナ、失職、職業転々、習慣飲酒、夫婦問題、引きこもり、職場の人間関係、DV加害 ⇒ 「仕事関係 + 夫婦問題」

※コロナの影響とされている因子：借金、負債、失業、就職困難、業績悪化、収入減、外出自粛など

3. 既遂者の背景

【大阪府監察医事務所個別事例（2020年～2021年）から推定された既遂者の主なプロフィール】

性別	年代	職業	背景
女性	—	学生	親子問題 + 未遂歴 + 突発的既遂行動
女性	—	非正規雇用	経済問題 + コロナの影響※ + 『死にたい』発言
女性	20代	—	親子問題 + 気分障害 + 未遂歴
女性	20代	—	精神科受診あり + 気分障害 ± 未遂歴
女性	20代	有職	男女問題 + 未遂歴 ± アルコール問題（精神疾患は軽度）
女性	20代	サービス業・風俗関係	親子問題 + 未遂歴 + 重篤な精神疾患 ± アルコール問題
女性	20代	無職	いじめ・職場の人間関係 + 不登校・ひきこもり + 重篤な抑うつ + 未遂歴

●女性全体の特徴：未遂歴、DV被害、統合失調症、発達障害、親子問題、希死念慮、抑うつ、不安、メンタルによる就業難⇒「精神疾患 + 親子問題」

※コロナの影響とされている因子：借金、負債、失業、就職困難、業績悪化、収入減、外出自粛など

3. 既遂者の背景

【既遂者における精神科受診歴と抑うつ診断ありの状況（大阪府監察医事務所データより）】

※抑うつありは、受診歴があり、診断をされている人。

精神科受診		あり	なし	抑うつ		あり	なし	ありの割合
2019年	男性	119	208	2019年	男性	55	272	20.2%
	女性	94	66		女性	53	107	49.5%
2020年	男性	143	219	2020年	男性	73	289	25.3%
	女性	142	68		女性	78	132	59.1%
2021年	男性	128	236	2021年	男性	72	292	24.7%
	女性	152	74		女性	99	127	78.0%

○2020年は、精神科受診ありが男女とも増加、なしがほぼ不変であるため、2020年増加分がほぼ精神科受診あり群の増加によるものである。

○2021年は、女性で精神科受診あり、なしとも微増。

○抑うつありは、2020年男女とも増加（ただし、なし群も増加）。2021年は、女性で抑うつありの割合が大きく増加している。

【既遂者における精神科受診歴と未遂歴の関連（男女）（大阪府監察医事務所データより）】

	精神科受診	未遂歴あり	未遂歴なし	総計
2019年	精神科受診あり	77	136	213
	精神科受診なし	32	242	274
2020年	精神科受診あり	104	181	285
	精神科受診なし	31	256	287
2021年	精神科受診あり	121	159	280
	精神科受診なし	39	271	310

○2020年は、精神科受診歴ありが増加し、未遂歴もあり、なしとも増加

○2021年は、受診歴ありは全体的には微減しているが、受診歴あり群の中の未遂歴あり群は増加している。